

Course Code	5121010	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	環境法				
Faculties	中谷 和弘／大塚 直／桑原 勇進				
Course Objectives/Overview	<p>わが国では幾多の公害事件訴訟を通して不法行為や差止め等をめぐる民事法理論に大きな進展が見られたところであり、まずはその流れを把握するとともに最新の問題状況を正確に理解することが第一の課題である。しかし、損害賠償や差止めといった民事法の伝統的なテーマに思考を局限することなく、環境救済法という枠組みの下に、経済学理論に基づく近時の救済手法や環境哲学に立脚する新たな救済原理などをも視野に収めた幅広い考察を求めていく。さらに環境法の国際的側面についても理解を深めてもらうことを目指す。</p>				

Course Code	5121020	Term	A1A2	Credits	4
Course Title	Competition Law and Policy				
Faculties	VANDE WALLE, Simon A.W.				
Course Objectives/Overview	<p>Every day, hundreds of companies compete with each other to sell us something. Can companies do anything to win against their competitors? No! This is where competition law comes in. It sets the boundaries of what companies are allowed to do in the marketplace. It is like the referee in a boxing match.</p> <p>This course will help students understand the fundamentals of competition law: the key concepts and rules, as well as the challenges facing competition law.</p> <p>We will do this by looking at competition law in three jurisdictions: the EU, Japan and the United States. Each of these jurisdictions has its own approach to competition law but there is a common core of fundamental principles.</p> <p>The class is taught in English but students are free to ask questions or give comments in Japanese.</p> <p>毎日、何百もの企業が、私たちに何かを売るために競い合っている。しかし、この戦いにもいくつかの制限がある。そこに、競争法（経済法）が登場する。競争法は、企業が何をすることが許されるのか、その境界線を設定する。試合におけるレフェリーのようなものである。</p> <p>本講義は、競争法の基礎、すなわち主要な概念、ルールとその背景にある理論を理解することを目的とする。</p> <p>本講義では、三地域（EU、日本、米国）における競争法を比較・検討する。それぞれ独自の特徴がある一方、基本となる原則には共通点もある。</p> <p>授業は英語で行われるが、学生の質問及びコメントは日本語であっても歓迎する。</p>				

Course Code	5121022	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Big Tech and competition law: how has competition law dealt with GAFA?				

Faculties	VANDE WALLE, Simon A.W.
Course Objectives/Overview	<p>Google, Amazon, Facebook and Apple play an important role in the digital economy and in our daily lives. But the rapid growth and market power of these companies has also raised concerns. Have these companies become digital monopolies that threaten competition? Have they abused their market power to exclude smaller competitors? Have they engaged in “killer acquisitions”?</p> <p>This seminar will look at how competition law - known in Japan as antimonopoly law 独占禁止法 - has dealt with these questions. The core of the seminar will be an analysis and discussion of the main cases that have been brought against Google, Amazon, Facebook and Apple. What was at issue in these cases? What has been the impact of these cases? The focus will be on cases brought by the European Commission, which enforces EU competition law, but cases brought by U.S. authorities and the Japan Fair Trade Commission can also be discussed.</p>

Course Code	5121040	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	経済刑法				
Faculties	樋口 亮介				
Course Objectives/Overview	経済活動に関わる刑事立法、判例について整理する				

Course Code	5121050	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	公共哲学と法				
Faculties	瀧川 裕英				
Course Objectives/Overview	<p>この授業では、集合責任の問題を扱う。集合責任とは、複数の個人が関与する責任である。集合責任は個人責任と対比される。個人が自らの行為の結果に対して責任を負うのが、個人責任である。これに対して集合責任とは、①個人が自らの行為の結果でないにもかかわらず集団に帰属しているという理由で負う責任や、②集団が負う責任を指す。こうした集合責任が正当化できるか、正当化できるとしてその条件は何か、が基本的な問いである。</p> <p>特に問題となるのは、国家に関わる責任である。不正な戦争や植民地主義など、国家の決定によって損害が生じることがある。こうした損害を補償する責任を、国民は負うか？ その決定に反対していた場合はどうか？ 民主制でなく権威主義体制で、そもそも国民に意思表明の機会が与えられていない場合はどうか？ 現在ではなく過去の決定に対して、現在の国民は責任を負うか？</p> <p>この授業は、総合法政、法曹養成、公共政策の合併で行なわれる。異なるアカデミック・バックグラウンドを持つ参加者の英知を結集して、国家行為に対する国民の責任という難問に取り組みたい。なお、利用する文献は、主として英語文献となる。</p>				

Course Code	5121080	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	労働法政策				
Faculties	濱口 桂一郎				
Course Objectives/Overview	伝統的な公労使三者構成の審議会において労使団体と政府(厚生労働省)の間で行われる対立と妥協のメカニズムとともに、近年顕著な官邸主導による立法も含め、具体的な労働立法の政策決定過程を跡づける形で、労働法制の内容を説明する。いわば、完成品としての労働法ではなく、製造過程に着目した労働法の講義である。				

Course Code	5121090	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	社会保障政策（政策の理論と展開）				
Faculties	鈴木 俊彦				
Course Objectives/Overview	<p>1. 社会経済、国民生活の中で、社会保障は、現在及び将来にわたり非常に大きな比重を占めており、現代行政における社会保障行政の重要性はますます大きくなっている。一方、人口減少・少子高齢化、社会経済の構造変化など、社会保障を取り巻く環境・状況は大きく変貌しつつあり、その中で社会保障について、どのような政策を展開し、どのような保障の形を選択していくかは、「国のかたち」にも関わる重要な問題となっている。</p> <p>2. こうした状況認識・課題認識に立ち、長年にわたり社会保障政策の責任者として立案・実施に当たってきた経験を踏まえ、我が国の社会保障の現状と課題、今後の社会保障改革の方向性等について解説し、今後の社会保障政策を考える上での基本的枠組みや視点を提供する。その際、現役の事務次官、局長クラスの政策責任者など関係者との対話を通じて政策の構築と展開のダイナミズムを共有するとともに、最新の状況を把握し、理解と考察を深める。</p> <p>3. 具体的には、</p> <p>① 総論として、人口構造の変化、社会経済の変化、国民生活の変化、国際比較等を明らかにしつつ、我が国の社会保障の現状と課題、社会保障政策がどのように構築されてきたかを概観する。</p> <p>② 各論として、医療、介護、年金、人口減少対策等を中心に、主要分野について、現状と課題、今後の政策の方向性等に関して、政策責任者等の説明を聞くとともに、意見交換を行う。</p> <p>③ 以上を踏まえて、社会保障政策の今後の方向性に関する論点について掘り下げて分析し、総括として今後の社会保障と我が国社会の在り方について考察する。</p>				

Course Code	5121105	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	国際法の現代的課題				
Faculties	伊藤 一頼				

Course Objectives/Overview	学部における国際法の講義で修得した基礎知識を前提として、さらに深く国際法の理論的問題に取り組むための重要文献を講読し、研究を深めるための素材とする。特に、伝統的な国際法理論に対して新たな課題を投げかけるような事例や議論を取り上げ、今後の国際法の発展を見通すような視点を身につけることが目標である。				
----------------------------	--	--	--	--	--

Course Code	5121110	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	国際租税法				
Faculties	増井 良啓／平川 雄士				
Course Objectives/Overview	租税法の国際的側面を学びます。企業活動がグローバル化する中で、国際取引を行ったときに課税がどうなるかを検討できると、法律家として仕事をする上で大きな強みになります。そこでこの授業では、所得課税を中心にして、国際的な課税問題についてまとめた見通しを得ることを目標にします。制度の理論的基礎を講ずるのみならず、具体的な取引事例を素材とすることにより、問題発見やプランニングのための力を養います。				

Course Code	5121115	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Transnational Law				
Faculties	TIOJANCO BRYAN DENNIS				
Course Objectives/Overview	How does law within and across national borders create wealth and inequality? How can we rethink and reshape the law to make it more responsive to democratic demands and to bring about more wealth equality? This course joins the law and political economy (LPE) movement in interrogating these questions in three parts. The first is an intellectual history and theoretical critique of neoliberalism and law and economics. The second is an exploration of the promises and perils of transnational law: law which governs actions or events that transcend national borders. The third applies the LPE approach to specific fields of law: constitutional law, labor law, investment arbitration law, finance law, competition law, and migration law.				

Course Code	5121130	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	国際空間秩序と法				
Faculties	中谷 和弘				
Course Objectives/Overview	陸・海・空・宇宙を対象とするいわゆる領域論は、国際法の諸分野の中でも非常に重要な分野であり、国際法の解釈・適用の上でもまた外交政策・公共政策上も興味深い様々な素材を提供してきた。この授業では、海洋、国際航空、宇宙、領土をめぐる国際法上の諸課題について、実定国際法の解釈はもとより、明日のあるべき法(国際空間秩序)の提案も射程に入れつつ検討を行う。あわせて、第5				

の空間といわれるサイバー空間に関する国際法問題（特にサイバー攻撃の問題）についても検討してみたい。

Course Code	5121150	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	ヨーロッパ法				
Faculties	伊藤 洋一				
Course Objectives/Overview	<p>東西冷戦の終結とともに、ヨーロッパ連合(EU)は、安全保障をも視野にいれた広い権限を持つ地域的国際組織として、今や国際経済のみならず国際政治においても大きな意義を持つ存在となった。</p> <p>また、ヨーロッパ統合の進展とともに、EU法の重要性は増加の一途をたどっており、特に、EU法の基礎的知識は、EU加盟国の国内法理解に際しても今や不可欠となっている。ヨーロッパ法が、いかにして国内法においても重要性を獲得するようになってきたのかは、国際レベルにおける法の支配の確立事例としても極めて興味深い問題である。</p> <p>近年のユーロ危機、移民危機、ポーランド・ハンガリーの権威主義体制化問題、イギリスのEU脱退(Brexit)後の通商関係、新型コロナ危機、ロシアのウクライナ侵攻への対応問題等、岐路に立つ欧州統合に関する話題には事欠かない。これらの「複合危機」を背景として、EUに関する報道は少なくないが、残念ながら、日本のマスコミ関係者でも、現実のEUにおける制度設計、法形成がどのようになされ、またどのように運用されているのかにつき、正確な理解を持つ者は多くない。一方で、Brexitキャンペーンの際に、「ブリュッセル」が諸悪の根源であって、EUから脱退しさえすれば、全ての問題が解決するという、単純明快なポピュリストの主張が、しばしば報道されたことは記憶に新しい。ところが、Brexit以後、「行き過ぎた欧州統合」を非難するだけで、「グローバル化」による相互依存関係が進んだ現在の世界における全ての問題が解消するどころか、イギリス国内政治の混迷ぶりが白日の下に曝されることになった。</p> <p>EUが常に「非民主的」だと非難され、「ブリュッセル」だけが諸悪の根源だとする非難は本当に正しいのか、正しいとした場合、誰もが「民主的」だと認めるような制度は、どのようにすれば形成できるのか。それほどまでに「非民主的」な組織であるにも拘らず、なぜ加盟国は、イギリスの後を追って次々に脱退し、あるいはEUを直ちに廃止しようとならないのか、といった疑問が次々に浮ぶであろう。</p> <p>一言で言えば、EUの制度・運用の研究は、グローバル化の進展過程において、古典的な主権国家の枠を超える「民主的」な国際組織をどのように設計すべきかという大きな問題として、重要な意義を持つのである。</p> <p>以上のように、EC/EU法は、従来の古典的国際法とどのように異なるのか、加盟国の国内法との間にどのような影響関係があるのか、「民主的」な国際組織の設計はどのようなものであるべきかといった問題は、学問的にも重要な理論的問題を提起している。</p>				

	<p>本講では、上述のような近時の問題状況をも念頭に置きつつ、現行法たるリスボン条約を中心に講義を行う予定である。EU法の対象分野は、共同体管轄事項が拡張されてきた結果、今や多岐にわたっているが、EU組織法の理解は、個別のEU実体法理解のため不可欠の前提となる。本講では、EU法の総論部分にあたる組織法、具体的には、EUの機構、法源、争訟制度等について順次講じる予定である。</p>
--	---

Course Code	5121175	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	法と行動経済学				
Faculties	飯田 高				
Course Objectives/Overview	<p>この授業では、「行動経済学 (behavioral economics)」の知見を基にして、法制度が果たしている機能や役割について検討します。行動経済学とは、「人間が合理的または利己的に行動する」という仮定を置かず、人間行動およびその相互作用を探究しようとする経済学の一分野です。伝統的経済学との差異だけではなく連続性にも十分注意を払いながら、現実の法律や政策を分析するための視座を提供していきたいと考えています。</p> <p>授業名にあるように「法と行動経済学 (Law and Behavioral Economics)」と呼ばれる分野を中心に扱いますが、その枠にとらわれることなく、必要に応じてさまざまなトピックを取り上げます。特に今年度は、個人の行動だけでなく、組織の行動についても議論したいと思えます。</p> <p>法学政治学研究科および公共政策大学院の授業ですが、その他の研究所や学部の方のご参加も歓迎します。</p>				

Course Code	5121191	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	国際法判例研究				
Faculties	中島 啓				
Course Objectives/Overview	<p>国際法に関する最近の判例の読解を通じて、個々の判例が扱う国際法上の主題についての素養を深めるのみならず、国際判例の読み方の習得を目指す。</p>				

Course Code	5121203	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	ヨーロッパ統合と法3				
Faculties	伊藤 洋一				
Course Objectives/Overview	<p>ヨーロッパ統合の大きな特色は、「法による統合」であることである。特に、広義のヨーロッパ法(EU法およびヨーロッパ人権法)の国内法に対する優越の結果、加盟国においては、国内法の「ヨーロッ</p>				

	<p>「法化」が近年顕著な現象となっており、ヨーロッパ法の影響を無視して加盟国の国内法のみを研究することは、もはや困難となってきた。しかし、EU 裁判所と加盟国の国内最上級審との関係は、当初から良好な関係であったわけではなく、例えば、フランス国務院(Conseil d'État)は、1989年のNicolo判決まで、久しく国内後法に対する条約法の優越を認めていなかった。</p> <p>今年度の演習では、Nicolo判例から現在にいたるフランス国務院とEU裁判所との関係を整理したフランス語論文を教材として講読する。国内法と二つのヨーロッパ法(EU法およびヨーロッパ人権条約法)が交錯する近年のヨーロッパ諸国におけるヨーロッパ法と国内法との関係・課題を考察する手掛かりとなるであろう。</p>
--	---

Course Code	5121204	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	ヨーロッパ統合と法4				
Faculties	伊藤 洋一／網谷 龍介				
Course Objectives/Overview	<p>EU加盟国における、国内法の「ヨーロッパ法化」が顕著な現象として注目されるようになって既に久しい。このような現象は、EC/EU法における直接適用性・国内法に対する優越原理の形成と不可分である。</p> <p>しかし、ヨーロッパ法といえども、一日にして形成されたものではない。往々にして見受けられるデマゴグの主張するところとは異なり、ヨーロッパ法は、決して加盟国と全く無関係に「ブリュッセル」が形成してきたものではなく、既に半世紀にわたる、EC裁判所(リスボン条約発効以後は、EU裁判所と改称)と国内裁判所との相互影響関係、近年頻繁に使われるようになった言葉を用いれば「裁判官の対話(dialogue des juges, judicial dialogue)」を通じて形成されてきたものである。</p> <p>残念ながら、日本における従来のヨーロッパ法研究は、ともすればヨーロッパレベルの動向のみを対象とし、その動的な性格を軽視しがちであったが、ヨーロッパ法は、決してEU裁判所が象牙の塔の中で無から作り上げたものではなく、加盟国の国内裁判所との間の相互的影響のもとに形成されてきたものであることを忘れてはならない。換言すれば、国内法の「ヨーロッパ法化」は、一面では、ほかならぬ加盟国の国内機関の手によるものなのである。</p> <p>このような相互的影響は、実定法解釈学としてのEU法研究のみならず、アメリカを中心とする政治学研究の対象としても注目を集めるようになり、「法と経済学」ならぬ「法と政治学」、具体的にはjudicial politics研究として少なからぬ研究業績が蓄積されてきている。ヨーロッパ統合の特色は、「法による統合」である点にあると言われてきたが、これは逆に言えば、EU法が単なる実定法解釈に止まらない政治的意義を持つということであり、EU法の形成過程を深く理解するためには、政治学との協働が欠かせない。</p> <p>そこで、今年度は、近年ヨーロッパ法形成過程に大きな影響を及ぼしつつある加盟国の憲法裁判所に注目し、judicial politics研究に関わ</p>				

	<p>る論文合計約 10 数本(合計約 300 ページ程度; 開講時にリスト配布予定)を取り上げる予定である。</p> <p>本授業は、参加者数等をも考慮のうえ、上記文献を、参加者(参加者の人数によっては、グループ)が毎回分担報告する形式で進める。</p> <p>教材となった文献を手がかりとして、EU 裁判所と国内裁判所との相互影響関係を具体的に検討することにより、ヨーロッパ法に対する理解を深めることが、本講の目的である。</p>
--	---

Course Code	5121271	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	金融商品取引法				
Faculties	大崎 貞和				
Course Objectives/Overview	日本における資本市場法制の中核をなす金融商品取引法の全体像を解説する。法規制の技術的側面に過度に目を奪われることなく、基本的な構造と制度の背景となっている考え方を把握することを目指す。資本市場をめぐる時事的な話題も取り上げ、現実の市場のダイナミズムを感じ取れるような講義にしたい。				

Course Code	5121291	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	医事法発展演習				
Faculties	米村 滋人				
Course Objectives/Overview	医事法は、医療や医学研究に関する法律問題を扱う法分野である。従来から存在した医療過誤・薬害等の類型に加え、近時では特殊医療や医学研究に対しても法規制が強化されており、この分野に関する法律問題は急速に拡大しつつある。ところが、これらの問題は法学部・法科大学院・公共政策大学院等の講義で扱われないことが多く、また医学や医療政策等の総合的な知識が必要であるため、独学での学習は相当に困難である。本科目は、医療・医学研究の分野で発生している法律問題に関して、医学・法学・公共政策学等の専門家をゲスト講師に招くなどして背景的知識を補いつつ、問題の多角的な検討を行い、当該分野の法制度のあり方などにつき発展的な考察を行うことを通じて、医学・法学の両者にまたがる専門的問題解決の能力を培うことを目的とする。				

Course Code	5121300	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	金融法				
Faculties	松井 智予／加藤 貴仁				
Course Objectives/Overview	この講義では、金融実務に詳しい実務家をゲストとして招いて実務の現状や実際に生起している問題点などを具体的に話してもらい、それに基づいて理論的な分析や展望などを試みる。				

Course Code	5121380	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	法医学				
Faculties	岩瀬 博太郎				
Course Objectives/Overview	法医学とは法が適正に執行されるべく医学的な助言を行うための学問である。すなわち、国民の安全や権利を守るための医学といえる。法医学は死因究明のほか、虐待を受けた小児等の保護も業務として実施しているが、本講義ではそうした法医学の目的や業務を理解することを目的としている。				

Course Code	5121393	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	法のパースペクティブ：刑事司法と「アウトサイダー」				
Faculties	VANOVERBEKE Dimitri				
Course Objectives/Overview	<p>The criminal justice system in Japan has for decades been characterized by an aura of infallibility supported by an extremely low crime rate. Miscarriages of justice were hardly an issue in the wake of the high degree of professionalism and rigorous approach by prosecutors and judges alike in what is known as “seimitsu shihō” (precise justice): a long and detailed examination of suspects. Yet, the myth of infallibility suffered a severe blow in the 1980s. Flaws were being exposed. One of the foremost experts on criminal procedure in Japan, University of Tokyo professor, Ryūichi Hirano, in 1985 famously assessed that the Japanese criminal justice system was “rather abnormal, even diseased (byōteki)” (Hirano 1989, 129) as the criminal court is ‘simply an institution to check the prosecutors’ determination of guilt “for good measure” (Hirano 1989, 131). Hirano’s conclusion that only the inclusion of outsiders such as jurors in a jury system could bring a way out of the traditional scripts of the “hopeless” criminal trials (Hirano 1989, 142). Gradually, the challenges to the criminal justice system in particular, and the legal system in general, resulted in a build up towards a window of opportunity for drastic changes in Japan’s judicial system. An important reform from May 2009 was the introduction of a mixed jury system. For about twelve years, this mixed jury trial has been in operation now. Has it changed the script of the criminal trials in Japan? This question has been central to many recent publications on law and society in Japan. The lay judges attracted most scholarly (and non-scholarly) attention while other non-legal professionals also play an important role in the script of the criminal trials in Japan. Their role has been neglected. In this seminar we will introduce a socio-legal approach to Japan’s criminal justice system and its socio-political context, by paying attention (using methodologies in the field of sociology of law) at a diverse group of “outsiders” in Japan’s criminal process, notably forensic psychiatrists, social workers, victims, forensic scientists, and lay judges. We will also tackle questions related to the path to these changes – history matters, and focusses on their content before turning to how these non-professionals of law operate. In this seminar we will use Erik Herber’s award winning book “Law and Expert Contributions to Japanese Criminal Justice” (Routledge, 2019) as the steppingstone for discussion and guest speakers will also help to answer the important question: “How and why do outsiders’ contributions affect or fail to affect the legal decisions ultimately taken?”</p>				

Course Code	5121394	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Perspectives on Law : Japanese Law as Viewed from Abroad				
Faculties	Daniel Foote				
Course Objectives/Overview	<p>For over a century, Western scholars have pursued scholarship on Japanese law. Foreign scholars have produced many excellent works exploring various fields of Japanese law, frequently approaching subjects from perspectives other than those commonly found within Japan. In this course, we will read and discuss leading works on Japanese law written by foreign scholars. The readings will include works from various perspectives, including sociological, historical, economic, and practice-related perspectives. For a few class sessions, depending on availability, foreign scholars will be invited as guest speakers.</p> <p>NOTE: This class will be conducted entirely in English. Heavy emphasis will be placed on class discussion.</p>				

Course Code	5121424	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	アメリカ非営利法人法				
Faculties	溜箭 将之				
Course Objectives/Overview	<p>アメリカは、世界でも非営利セクターが発展した国で、多数の非営利団体が国内外で社会的にも政治的にも重要な役割を果たしている。大規模な非営利団体が存在し、また小規模な団体も活躍し、それらを支える法制度や支援の仕組みも発達している。本授業では、アメリカにおける非営利法人に関わる法制度を、その社会的背景も含めて検討する。日本の非営利セクターの規模は、アメリカなど諸外国と比べて小さいが、日米比較も織り交ぜつつ、今後の市民社会のあり方も含めて考える。</p>				

Course Code	5121433	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	証券市場法演習				
Faculties	大崎 貞和／朱 大明				
Course Objectives/Overview	<p>日本の金融商品取引法に関する基本的な諸問題について、中国やアメリカなど海外の法制との比較を踏まえつつ、法の考え方を学ぶとともに、実務的な論点について検討する。</p>				

Course Code	5121436	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	国際商事仲裁				
Faculties	増見 淳子				
Course	企業活動のグローバル化に伴い国際商取引紛争は増大し、国際商取				

Objectives/Overview	引に関する紛争解決方法として、国際商事仲裁が定着してきている。日本企業が当事者となる国際商事仲裁事件数も増えてきていることから、本講義においては、仲裁制度の基礎知識を習得したうえで、国際商事仲裁に関する理論的な枠組みを理解し、国際商事仲裁の各論点につき、実務的な観点から、理解を深める。仲裁実務については国際商事仲裁に精通した外国人実務家が英語により行う。
---------------------	--

Course Code	5121452	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	アジア・ビジネス法				
Faculties	平野 温郎				
Course Objectives/Overview	企業がグローバルに事業展開する上で必須の機能である「国際企業法務」を、アジア（中国・香港及びいくつかの ASEAN 主要国を取り上げる予定）をテーマとして概観する。事業の法的イシュー・リスクを発見し、最適解を導き出すことにより、その持続的な成功を法的に担保するという、所謂「リーガルリスク・マネジメント」（これはビジネスパーソンのコアスキルである）の素養を身に着けることが目的である。将来、企業の法務部門や事業部門で、アジア関係業務を中心に専門性を活かして活躍したい参加者を想定しているが、アジアに関心を持つ参加者も可能な限り歓迎する。				

Course Code	5121454	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	国際ビジネス法				
Faculties	平野 温郎／増見 淳子				
Course Objectives/Overview	<p>企業がグローバルにビジネス展開を行うにあたっては、様々な分野にまたがる国際的なビジネス法の基本的な知識を有するとともに、これを駆使していかに企業価値を最大化するかというビジネスセンスを有し、かつ言語を含めた国際的素養を有する人材が求められる。本授業はこのような人材育成を念頭に、外国人ゲストスピーカーも含めた複数の実務経験者が教員となり、ビジネスのさまざまな局面における法的問題を概観する。</p> <p>Nowadays, companies developing their businesses globally need business and legal experts who have basic knowledge of various areas of cross-border business law, good business sense for utilizing such knowledge to maximize corporate value and broad exposure to international matters including knowledge of foreign languages. This course will seek to develop student awareness and knowledge of the foregoing human resource imperatives by examining legal issues that arise in various business situations. Lectures will be conducted by instructors, including foreign guest lecturers, who have practical experience in this field.</p>				

Course Code	5121458	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Law and the Formation of Transnational East Asia				

Faculties	松原 健太郎／TIOJANCO Bryan
Course Objectives/Overview	<p>This course explores the visions and historical processes that shaped the political, economic, and legal principles, policies, and practices of a transnational order in East Asia from the mid-nineteenth century to the mid-twentieth. Its focus will be on the trans-Pacific interactions between the United States, Japan, the Philippines, and China, but always with the rest of East Asia in mind. The discussions will delve into the interplay of law, politics, and economics during the period covered. Through these discussions, this class will explore new ways of understanding the historical developments whereby a coherent transnational order was formed in East Asia. The aim will be to overcome the limitations of the two prevalent narratives regarding East Asian history. The first, known as the "Western Impact" model, looks at modern East Asian history in the context of how each society reacted to Western powers attempting to dominate the area through trade and colonization. The second approach has traditionally been presented as an antithesis to the first, focusing on the internal logic of East Asian societies, and modernization in these societies is explained by referring primarily to domestic political dynamics, avoiding overemphasis on influence from the West. By grounding our analyses on the development of a transnational order among East Asian societies on one hand, but focusing on trans-Pacific interactions on the other, our objective will be to re-assess not just the history of East Asian societies, but the history of the US, and its role in the shaping of a global order that remains crucially important to this day.</p>

Course Code	5121461	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Law and Society in East Asia				
Faculties	MATSUBARA Kentaro				
Course Objectives/Overview	<p>This seminar aims to discuss the social / historical bases on which a modern legal system might operate in various East Asian societies, and to provide an introduction to some of those problems involving the integration of different legal traditions into a pluralistic yet coherent legal regime. We will focus on the tensions experienced by these societies, involving the importation of what were presented as "universal" values and norms, and the near-universal resistance to these values and norms, such resistance being based on the notions of custom and tradition. While the initial focus will be mainly on the experiences concerning the formation of legal institutions in China and Japan, students will be encouraged to bring in perspectives from other societies as well. The problems discussed will include: the difficulties regarding what exactly can be identified as East Asian legal traditions; how legal regimes were structured through the actions of actors exploiting the plurality of legal traditions; and how the relationship between legal arrangements and the political power-structure played out. Particular attention will also be paid to the issues of colonialism, and the uneasy relationship between Modernisation, Westernisation and Colonisation in these societies. The ability to read source materials written in Chinese and/or Japanese would be of much help, but will not be essential.</p>				

Course Code	5121463	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	European perspectives on law and society: a comparative and historical approach				

Faculties	Dimitri Vanoverbeke
Course Objectives/Overview	<p>In this seminar we will discuss the way that citizens think about the law. This question has been central to research in the field of law and society worldwide. In a "revival" of the classic question in this field, recent publications have proposed a new approach on thinking about the law and the role that law plays in society today. This new approach was mainly proposed by the Dutch socio-legal scholar Marc Hertogh in his book "Nobody's law: Legal consciousness and legal alienation in everyday life" (Springer, 2018). He departed from the observation that there is a crisis of the rule of law in Europe because of an "alienation" of people from the law. Hertogh argues that scholars of law and society have to take this crisis seriously to guarantee a continued proper functioning of the legal system and hence, to ensure a robust democracy. In this seminar we will introduce the field of law and society by specifically analysing the question of legal consciousness (法意識) in relation with democracy. We will pay attention to classical research on legal consciousness in Japan, its content, methodology, social context, strengths and flaws. We will then read Marc Hertogh's book and discuss whether his approach is new and relevant. What does this book mean for the study of law and society in Japan? Are law and democracy in Japan in a similar state of crisis than Europe? In sum, in this seminar, law in society will be analysed from a bottom-up perspective, i.e. from the perspective of the people and how this impacts the legal system (therefore we will keep the macroscopic and comparative perspective in mind). Students will be encouraged to raise issues, suggest readings, articles from newspapers, movies, etc, and introduce relevant cases. Students will also be introduced to and conduct interviews with relevant actors.</p>

Course Code	5121470	Term	A 2	Credits	2
Course Title	国際法の基本問題				
Faculties	寺谷 広司				
Course Objectives/Overview	<p>どのような法分野でもそうだが、理論教育の重要性は論をまたない。本ゼミでは、国際法の諸問題について、より理論的な文献を中心に選択し、全員で討議する。 教材については、開講時期が近づいてきてからアナウンスする。</p>				

Course Code	5121490	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	国際法実務演習				
Faculties	大平 真嗣／秋山 卓也				
Course Objectives/Overview	<ul style="list-style-type: none"> ●実際に生起している国際問題と関連するケース・スタディについて各回毎に割り振られた学生が国際法上の論点を整理して報告し、参加者と議論を行う。担当教員は実務家の立場に立って質問・コメントを行う。特に実際に生起している国際的な問題、事件、紛争、国際裁判等を取り上げる。 ●報告においては、事実関係について様々な公開情報（各国政府の発表等）を使って整理し、関連する学術的な論考、国際判例、事例等 				

	を紹介しつつ国際法上の論点を指摘し、具体的な根拠を示しつつ報告者としての法的意見を提示する。
--	--

Course Code	5121501	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	沿岸域管理法制度論				
Faculties	三浦 大介				
Course Objectives/Overview	<p>この講義では、森・川・海の連続した自然空間を「沿岸域」として捉え、我が国の沿岸域に係わる諸法律を概観し、沿岸域「総合管理法」の必要性を提示する過程において、現状の沿岸域における利用調整と自然保護の諸問題点を把握する。</p> <p>「沿岸域」の管理に関する制度の基礎知識を講義した後に、海域を中心とする「開発と環境保護」をめぐる具体的事例を提示することで、単なる法解釈論的な理解に留まらず、事件の背景にある利害衝突の実相を探究し、問題の解決方法も考究する。1つの問題を多角的に理解する能力の涵養に努めたい。</p>				

Course Code	5121510	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	コーポレートガバナンス				
Faculties	林 良造／鈴木 寛／中原 裕彦／萬澤 陽子				
Course Objectives/Overview	<p>コーポレートガバナンスとは、会社が、株主をはじめ顧客・従業員・地域社会等の立場を踏まえながら、透明・公正で迅速・果敢な意思決定を行うための仕組みをいうものとされている。こうした会社のカタチは、金融市場・労働市場を含む我が国の経済社会の在り方に大きな影響を与えてきた。</p> <p>80年代までのジャパン・アズ・ナンバーワンと言われた時代には、我が国の会社のカタチこそが最も望ましいと称された。しかし、90年代に入り、バブル崩壊や不良債権処理の遅れが顕在化してからは、その脆弱性が指摘され、会社法・金融商品取引法・会計規則・税法などの諸制度の改正が劇的に進み、株式所有形態の変化などと相まって企業経営を監督するための制度環境は格段に充実した。そして、近年では成長戦略の一環としてコーポレートガバナンス改革が進みつつあり、いわゆる日本版スチュワードシップ・コードやコーポレートガバナンス・コードの制定や累次の会社法なども行われるとともに、企業の買収を巡る動きも盛んである。また、ESGに関する議論の高まりを背景に、会社の経営者こそ社会のサステナビリティの維持に専心すべきであるといったいわゆるパーパス経営の議論も登場している。</p> <p>この分野は学際的な理論と実務が交錯する分野であるところ、この授業では、実際のコーポレートガバナンスの現場や海外のガバナンス制度との違いを視野に入れつつ、我が国のコーポレートガバナンス制度が直面している課題及び適切な制度構築に向けた論点を検</p>				

	討し、更なる制度設計に向けた視座を得る。
--	----------------------

Course Code	5121520	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	武力紛争と法				
Faculties	黒崎 将広				
Course Objectives/Overview	<p>武力紛争（戦争）に適用可能な国際法の基本知識を習得し、ロシア・ウクライナ紛争をはじめとする世界各地の武力紛争の規制について考えるための視野を涵養する。なお、本科目では、教養学部・大学院総合文化研究科開講科目「武力紛争法・国際人道法」で扱わなかった国際法規則について講義を行うため、この分野の知識を深めたい学生は、「武力紛争法・国際人道法」と合わせて本科目を履修（または聴講）するのが望ましい。もちろん、どちらの科目から履修しても構わないし、本科目だけを履修するのも構わない。</p>				

Course Code	5122011	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	市民社会組織・政策論				
Faculties	田中 弥生				
Course Objectives/Overview	<p>「市民社会組織・政策論のめざすもの」</p> <p>市民社会組織（非営利組織）が、政策的課題として本格的に取り上げられるようになったのは東西冷戦終焉直後からである。だが、主たる期待は社会サービスの補填機能であった。昨今、ポピュリズムや民主主義の危機が取りざたされる中で、大きな緊張感が生じている。こうした中で市民社会は正にも負にも作用する。そこで、ナチスなど歴史の変遷にも着目しながら、市民社会とその中軸を担う非営利組織について考察することが本講義の底流に流れる問題意識である。</p> <p>2023年度においては、パブリックへの参加と、その担い手としての非営利組織に着目して講義を構成する。</p> <p>社会課題の解決を自らの仕事のテーマ、ひいてはライフテーマにする人々が増えている。社会課題が横たわる領域は、多数の人々に影響をもたらすそれであり、ひいてはパブリックの領域（公共領域）と重なる。パブリックの領域は政府の占有物ではなく、社会情勢、市場の動向、規制などの法的条件の変化によって、常に変容する領域である。また、その担い手は行政機関などの公的機関に限らず、企業や民間非営利組織など多様な主体が担っている。</p> <p>本講義は大きく2つの柱で構成する。</p> <p>第1に、パブリック領域の中でも、個人や市民の自由意志と参加で築かれる民間非営利組織について学ぶ。ここでは、民間非営利組織に焦点を当てて、その存在意義を示す理論、さらにはマネジメントについて学ぶ。そして、パブリックの領域で活動する政府と非営利組織の関係性に着目し、官民協働にかかる政策とその影響に着目す</p>				

	<p>る。</p> <p>また、非営利組織は市民、企業、そして行政機関などと連携を行っている。また、組織を維持運営し、社会的インパクトを生むためには多くの市民の支持を得る必要がある。しかしながら、非営利組織には企業（市場）、政府（選挙）に該当するユニバーサルな評価メカニズムが存在せず、支持対象としての NPO の評価基準が曖昧である。非営利の評価研究はそのような背景から生まれた。ここでは、評価の基礎的な考え方、主要な技術について学ぶ。</p> <p>第2に、パブリックに参加することに着目し、特に、この領域で働くことの意義について、各セクターからのゲストを招き、受講生と議論する。ゲストには、政府、民間営利（企業）、民間非営利のそれぞれ3つの組織で働く人々を招く。仕事の内容、そのプロセスを成果、個人にとっての動機などを聞きながら、自らの意思で社会課題の解決を通じて、パブリックに貢献することの成果と意義について議論する。</p> <p>註）NPO、NGO は非営利組織と呼ばれることが多いが、営利を追求しない組織という意味しか説明しない名称であるという批判があった。そこで、民間の立場から公益や社会課題の解決を目的に活動する組織体を体現する名称として、市民社会組織（Civil Society Organization）という言葉が用いられることがあり、特に国際社会では一般的になっている。</p>
--	--

Course Code	5122020	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	比較政策過程論				
Faculties	梅川 健／板橋 拓己／池本 大輔				
Course Objectives/Overview	<p>先進民主主義諸国のうち、イギリス、アメリカ合衆国、ドイツという事例を取り上げ、その政策過程を比較検討する。イギリスは議院内閣制＋中央集権制、アメリカは大統領制＋連邦制、ドイツは議院内閣制＋連邦制の代表的な事例であり、まずはこの3か国の制度的特徴や政党政治のあり方を学んだうえで、予算、移民、福祉、外交など、さまざまな政策領域から適宜政策過程の具体的事例を検討していく。</p> <p>重要な論点としては、政策形成の背景となる各国の公式の制度、官僚制の特質、政治文化、政党や利益団体の役割などが挙げられる。国ごとの、そして政策領域ごとの歴史的背景と同時に、比較政策分析のために有効な理論や概念も紹介していきたい。</p>				

Course Code	5122035	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	政府間関係論				
Faculties	金井 利之				

Course Objectives/Overview	<p>本授業は、自治体行政学を受けて、現代日本の自治体行政を、複数の政府間の関係からなるシステムである点に着目して、実際の制度と運用に即して概観することを目的とする。しかし、行政学の一分野としての側面を重視する観点から、現代日本の行政全般についても注意を払う。</p> <p>区域によって管轄が仕切られる自治体にとって、空間は根源的に重要である。政府間関係も、空間の観点からは、管轄する空間の関係としても現れてくる。そこで、今年度は、自治体と空間の関係を検討したい。具体的には、基礎的文献を素材として、指定された文献を事前に読んでくることを前提に、担当学生による報告と、解説の講義と、参加者間の討論を進めることとする。</p> <p>その意味で、実質的には演習形式を想定している。</p>
----------------------------	--

Course Code	5122061	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Governance and Policies of EU				
Faculties	鈴木 一人				
Course Objectives/Overview	European Union has a unique system of governance. On the one hand, it has a feature of international organization as a collection of sovereign state, but on the other, it has autonomous authority and competence to govern. This course will provide how EU came to this form of governance and what are the policies that has been conducted within EU. It will discuss the issues in recent years such as Brexit, emergence of populist movements, and migration issues.				

Course Code	5122070	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	地域政治 A (現代中国の政治)				
Faculties	高原 明生				
Course Objectives/Overview	<p>この講義は、建国以来、今日にいたるまでの中華人民共和国の政治と外交を主な対象とする。実質的な一党独裁を続ける中国共産党の思想、組織、政策、行動様式などが、如何に変化してきたか、あるいは変化しないままできたか、ということが中心問題である。当然ながら、その変化は国際環境の影響を受けている。</p> <p>日本やアジアのみならず、世界にとって、中国の重要性がさまざまな意味でますます大きくなることは間違いない。中国に関して、しっかりとした根拠に基づき、理性的に議論することが肝要であるが、中国政治は複雑かつはなはだ不透明である。それについて学び、理解することは難しいが、面白い。</p>				

Course Code	5122085	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	地域政治 B(現代アフリカの政治)				
Faculties	遠藤 貢				

Course Objectives/Overview	<p>国際社会の中において、(主に独立後の) アフリカ諸国が抱えてきた諸問題を俯瞰するための多角的な視点を提供する講義等を行う。アフリカ諸国の国家や政治体制、政治変動の特徴、政治経済の論理と援助の潮流、国際関係における位置の変容、あるいはグローバル化との関わり、多発する紛争とその変容、並びに「紛争後」の諸課題などの問題を検討する。また、これらの作業を通じて比較政治学、ならびに国際政治学の理論に提起されてくる諸問題について考察を加えるほか、政策的課題についても検討を加える。特に 2022 年にはチュニジアで第 8 回アフリカ開発会議 (TICADVIII) が行われるなど、日本のアフリカ外交が注目された年でもあるほか、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻へのアフリカ諸国の対応なども関心を集めた。授業では、講義のほかに、より立体的な理解を深めるために、アフリカに関する映像資料の鑑賞を行い、感想レポート提出を求める (対面授業が可能な場合には映像資料を用いて、感想レポートの提出を求める予定であるが、出席が困難な学生の皆さんには代替文献を読んだ感想レポートの提出も認める予定)。</p>
----------------------------	---

Course Code	5122088	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	地域政治 B (現代コーカサスの政治)				
Faculties	吉村 貴之				
Course Objectives/Overview	<p>旧ソ連から独立したコーカサス三国ならびにロシア連邦に属する北コーカサス地域の近現代の政治を素材に、ロシア世界と中東世界の境界領域としてますます国際社会の注目を浴びている国際関係、近代化に伴う民族の自立と離散、旧ソ連の少数民族政策、宗教と政治、民族紛争、「民主化」と「体制安定化」の問題を考察する。</p>				

Course Code	5122093	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	地域政治 C (現代フランスの政治)				
Faculties	中山 洋平				
Course Objectives/Overview	<p>この講義は、法学部の比較政治系の特別講義の一つであり、比較政治 3 (先進国の政治) の系列に属する。 西ヨーロッパ諸国の中でも、フランスは 19 世紀末の大衆政治の到来以来、様々な独自性をもつ「例外」と位置付けられてきた。第二次大戦後に大規模な統治制度の転換を行ったのは西ヨーロッパではフランスだけであり、それがしかも軍部の叛乱に伴って起きたという経緯も先進国では唯一無二である。その結果、フランスは、大陸西ヨーロッパの中では唯一、一元型の議院内閣制や比例代表制を採らない国となったが、独自なのは統治制度だけではない。戦後の経済運営体制も、国家指導経済 (dirigisme) や国家主導 (statism) などと呼ばれ、ネオ・コーポラティズムを軸とする隣国との対比が顕著であった。</p>				

	<p>そのフランス政治は、1980年代以降、グローバル化の中で劇的な変動を遂げた。1960年代までに見られたような目まぐるしく大規模な制度変更こそなかったものの、政党システムも、政官関係など政策過程も、中央地方関係も、市場との関係も、西ヨーロッパのどの国よりも大きな変貌を経験した。これはグローバル化以前の体制が示していた独自性と無関係ではない。</p> <p>今年度の講義では、戦後フランスの政治や経済運営の独自性を確認した上で、それが80年代以降の変動とどう連関しているかを解き明かしていきたい。</p>
--	--

Course Code	5122097	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	地域政治 C (現代アメリカ政治特殊研究)				
Faculties	梅川 健				
Course Objectives/Overview	この演習では、アメリカ大統領制研究の古典から出発し、近年の研究成果までを扱う。				

Course Code	5122110	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	自治体行政調査				
Faculties	金井 利之				
Course Objectives/Overview	<p>近年、デジタル・トランスフォーメーション (DX) が、自治体にとって重要な課題となっている。もともと、電算化・情報化・電子化などは、技術の進展に合わせて、ほぼ、常に課題になってきたと観ることもできる。例えば、電信・電話・ファックスも電算機・コンピュータも電子メールもウェブサイトも、ある時期までの自治体には有り得なかったが、今日ではほぼ全ての自治体のほぼ全ての領域で必須のものとなっている。それゆえに、デジタル行政といっても、行政のほぼ全ての領域に関わるような、広範な課題でもある。そこで、過去の営みも視点に入れながら、未来を見据えつつ、現時点でのデジタル行政の実情について検討していきたい。</p>				

Course Code	5122137	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Ethics and International Relations				
Faculties	ORSI Roberto				
Course Objectives/Overview	<p>This course provides an overview of the main ethical questions arising within international politics, both in academic discussions in their historical evolution, and from the perspective of practitioners. It is designed for an audience of postgraduate students. Some background in International Relations theory is welcome, although not required. Ideally, students may take this course following my Introduction to International Politics.</p>				

Course Code	5122139	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Contemporary British Foreign Policy towards Asia				
Faculties	ALASTAIR Morgan				
Course Objectives/Overview	<p>The course will survey the development and practice of contemporary British diplomacy towards Asia. It aims to provide insights into policy formation and delivery; challenges and dynamics in the Indo-Pacific region; Britain's multilateral and bilateral diplomatic relations within the region, in the context Britain's perceived global role. It will survey different fields of Britain's diplomatic activity in Asia: traditional foreign policy; defence, intelligence and security engagement; development assistance; trade and investment; consular affairs and crisis management; cooperation in science and technology; climate diplomacy; cultural affairs and public diplomacy. It will examine key issues in Britain's diplomatic relations with China, Japan, the Korean Peninsula, South-East Asia, South Asia and the wider Indo-Pacific. It will examine the relationship between Britain's policy towards Asia and the policies of the US and Britain's European allies, partners and competitors, and the framework provided by international organizations.</p> <p>The course will address questions such as how Britain defines and seeks to pursue its interests in Asia, independently and with partners. How have Britain's interests and objectives changed historically and how are they likely to change? What is the balance between traditional and non-traditional security concerns, and between bilateral interests and sustaining the international order and global commons? How well has Britain succeeded in projecting its global aspirations in Asia and effecting an 'all of Asia' policy? Is a further strategic 'tilt to the Indo-Pacific' achievable? What are the consequences for British diplomacy of the rise of China? What are the various interests and aspirations of Asian countries in their engagements with Britain, and how should Britain respond to them? What have been the implications of Brexit, the Covid-19 pandemic and Russia's war in Ukraine for Britain's foreign policy and diplomatic practice?</p>				

Course Code	5122140	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	国際政治経済の諸問題				
Faculties	飯田 敬輔				
Course Objectives/Overview	<p>本演習は国際政治と国際経済の接点にある各種の問題について実証的に研究することを目的とする。輪読のテーマは、主要国の貿易政策の比較である。米国、日本のみならず、その他の主要国の貿易をめぐる政策決定過程を幅広く取り扱いたい。文献については開講後指示する。</p>				

Course Code	5122159	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Transformation of Warfare and Technology				
Faculties	AOI Chiyuki				

Course Objectives/Overview	<p>There have developed quite separate debates concerning, on the one hand, the Transformation of Warfare, and Revolution in Military Affairs on the other. Conventional knowledge is that while the former approach encompasses a vast range of scholarly analysis on how war in the contemporary era might have transformed in all spheres of economy, politics and society, the latter has focused on the impact of technological advancement in a narrower sense on warfare, especially the way in which warfare has been conducted or ought to be conducted. However, to discuss changes in the character of war in these quite distinct spheres, each with specific preoccupations with no interactions, is not very conducive to a meaningful generalization about the transformation of warfare itself. The purpose of this seminar is to consider the impact of modern and contemporary technological changes, especially focusing on communication and media spheres, on the character and conduct of warfare today, hence bridging the two distinct spheres of interests.</p>
----------------------------	--

Course Code	5122170	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	西欧比較政治論				
Faculties	中山 洋平				
Course Objectives/Overview	<p>***3/12 更新*** グローバル化の進展に伴って先進諸国で市場自由化の流れが始まって既に半世紀近くが経過した。当初は市場諸力に従って経済運営を、そして政治のあり方までも画一化すると考えられたが、実際には第二次大戦後の経済運営体制の多様性を反映して、取られた市場化の経路も、そのインパクトも多様なものとなった。「ポピュリズム」と総称される左右の急進主義の多様性も原因のひとつはそこにあるはずだ。 グローバル化に急ブレーキがかかり、軍事化と共に国家のプレゼンスが再び大きくなりつつあるやに見える今、過去数十年の経験を比較の観点から総括し、西ヨーロッパ全体の見取り図を描くことを目指す。</p>				

Course Code	5122182	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Japan's Modernization Experience and Its ODA Policy				
Faculties	TAKAHARA / IOKIBE / KATO / KAYASHIMA / KITAOKA / KITANO / KOBAYASHI / NISHIZAWA / MATSUBARA / HAYASHI / MAKIHARA / YAMADA				
Course Objectives/Overview	<p>This course is designed to offer an overview of Japan's experience in modernization and how it has extended its assistance to other countries' modernizing efforts. As the first non-western country to modernize, Japan's experience, both positive and negative, presents an important reference point for other countries to investigate. This course is conducted in cooperation with JICA, the Japan International Cooperation Agency. Those taking part in the JICA Development Studies Program are required to take this course, while other students are most welcome to take part.</p>				

Course Code	5122201-1	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Contemporary Chinese Politics				
Faculties	LIM Jaehwan				
Course Objectives/Overview	In addition to enhancing understandings of the structure and processes of contemporary Chinese politics, this course aims to familiarize students with prominent theories of authoritarian politics. Among the topics this course will examine in the Chinese context are: factionalism, elite bargains and power-sharing, corruption; political participation; contentious politics; censorship and manipulation.				

Course Code	5122201-2	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Contemporary Chinese Diplomacy				
Faculties	高原 明生				
Course Objectives/Overview	This course looks into the diplomacy of the People's Republic of China. It discusses the development of Chinese diplomacy from the days of Mao Zedong and Zhou Enlai to the current period. Important questions to be tackled include the policy process, especially the linkage between internal politics and external policy.				

Course Code	5122207	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Policy and Governance in Contemporary China				
Faculties	JIN BEI				
Course Objectives/Overview	This course will introduce critical political, economic and social issues in contemporary China, and the policy measures taken by the Chinese government. Regarded as the "most serious competitor" to the United States, China's development direction and challenges will also be discussed. By the end of this course, students are expected to be able to understand how China has achieved rapid economic growth and social transformation, the fundamental characteristics of policy and governance in China, and their impact on current issues and future challenges.				

Course Code	5122211	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	発展途上国の政治				
Faculties	馬場 香織				
Course Objectives/Overview	本講義では、発展途上国の政治に関連する比較政治の主要な概念や理論を、現代世界の歴史的展開に沿いつつ紹介する。 比較政治とは、各国の国内政治について多様なアプローチから検討を行う学問分野である。政治経済社会のあらゆる側面で深くつながった今日の世界において、発展途上国で起こっていることは日本に				

	<p>暮らす我々と無関係ではなく、途上国の国内政治について理解する必要性はいっそう増している。また、例えば近年、先進民主主義国でも「民主主義の後退」が問題となっているが、そうした現象が一般に強く現れやすい途上国の経験や、そこから生まれる理論的知見は、先進国の政治を分析する際にも役立つものである。本講義では、受講者が途上国政治に関連する比較政治の代表的な概念・理論と、それらが生まれた背景について理解し、比較の視角を用いて途上国の政治現象を解釈する基礎的な力を身につけることを目標とする。</p>
--	--

Course Code	5122215	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	先進国の比較政治				
Faculties	古賀 光生				
Course Objectives/Overview	<p>事例研究を基礎とする比較政治学の手法を用いて、政党システム論の基礎を確認しつつ、その拡張の可能性を検討します。受講生には、「理論」の構築過程を確認することで、比較政治学が持つ可能性と限界を理解して自身の研究や実践的な活動にその知見を活かすことを期待します。</p> <p>議論の前提となる諸前提に起因する理論の射程を意識しつつ、理論を自ら構築し、かつ、実際の分析に活用するための能力を高めることを目標とします。</p>				

Course Code	5122219	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Strategic Communications and International Politics				
Faculties	青井 千由紀				
Course Objectives/Overview	<p>Strategic communications occupy a particularly significant place in world politics today. This course provides the background for understanding the expanded role of communications in contemporary international security and provides a theoretical framework for analyzing/explaining the role of communications in contemporary diplomacy and statecraft. This course will further situate contemporary uses of strategic communications in the evolving character of warfare today, especially the hybridization of threats and warfare. Issues covered include: the social impact of the evolution of ICT technologies; functions of strategic communications; public affairs and public diplomacy; military psychological operations and information operations; history of disinformation, misinformation, and malinformation; uses of strategic communications by non-state actors; governmental institutions and the apparatus of strategic communications; and strategic communications in Asia and the Indo-Pacific.</p> <p>This course is offered by the Strategic Communications Education and Research Unit (SCERU), with support from the European Union (EU). It also serves as a preparatory course for the GraSPP-King's College London double-degree programme.</p>				

Course Code	5122222	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	情報社会と総合安全保障				
Faculties	鈴木 寛／高見澤 將林／山内 康英				
Course Objectives/Overview	<p>(1) この授業の目標は、日本の情報社会と総合安全保障を主題として、(i) 既存の社会科学のさまざまな分析の枠組みを理解し、(ii) 具体的な社会事象に結び付けて解釈する方法を身に付けることです。また (iii) PBL を通して研究文献やオンライン資料を使った調査研究の手法を学びます。講義で取り上げる具体例を参考にして、論文作成や調査研究に応用するよう学生の皆さんに求めます。</p> <p>(2) 受講生の皆さんは、シンボリック・アナリストつまり抽象的な概念を使って組織活動やビジネス・スキームを構築する良き職業人となり、公的職業や付加価値の高い職務をこなさなければなりません。そのためには現在の日本社会の動向と、その歴史的推移を把握することが先決です。具体的には、(i) 日本の情報社会の政治経済の動向について包括的に理解するとともに、(ii) 情報産業や社会のリスク管理について基礎的な専門用語つまり語彙や概念を理解し、これを使って議論を組み立てる能力と、(iii) 社会と実践共同体が求める正しい振舞い、つまり公德 (public virtue) に立ちかえって考える習慣を身につけることが大切です。</p> <p>(3) 言葉は、「目と耳から入り、口と手から出るもの」、つまり “words in words out” です。まず基礎的な専門用語を身につけない限り、修士論文を書くことも、ビジネスや行政の実務で企画書のパワーポイントを作ることもできません。毎回講義をしっかりと受講して、身近な関心のあるテーマを選び、期末レポートでは自主的に調査と研究を進めて下さい。</p> <p>(4) 講義では毎回トピックを一つ選んで、(i) そのトピックに関連した社会科学の緒理論と、(ii) 具体的な検討事例を解説します。成績は、①授業の貢献度と②期末レポートによって総合的に評価します。単位の必要な方は、かならず期末レポートを提出すること。</p> <p>(5) この授業を主催する鈴木教授は、霞ヶ関と永田町の実務経験を持つ公共政策の専門家です。また高見澤客員教授は、防衛省の実務経験の長い安全保障の専門家です。山内客員研究員は、インターネットのシステム開発と運営や、JICA のコンサルタントとしてアジア諸国のインフラ建設に参加した実務経験があり、また東京大学大学院総合文化研究科の博士号 (国際関係論) を持ち客員研究員を兼務しています。</p>				

Course Code	5122236	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	International Politics in East Asia				
Faculties	佐橋 亮				
Course Objectives/Overview	This course does not focus on a particular nation's foreign policy. Rather, we examine the impacts of both the rise of Asia, regionalism and American commitment				

	on the order in East Asia. Behaviors of not only great powers but small and middle powers are to be analyzed.
--	---

Course Code	5122238	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Non-Western International Systems in History				
Faculties	MUKOYAMA Naosuke				
Course Objectives/Overview	<p>This course introduces students to two recent notable developments in the field of international relations: non-Western IR (or global IR) and historical IR. The former criticizes Eurocentrism in conventional IR and calls for more attention on non-Western regions, while the latter aims to broaden the temporal scope of IR research by investigating historical cases. After covering the historical background and major theoretical discussions, we will discuss empirical issues such as: How was the international system surrounding early modern Japan different from that in Europe? How did colonialism affect state building in both colonies and the metropole? Why did the West come to dominate the international order? This module aims to give students the tools to understand the origins of the international order we live in and how we can study international relations with less geographical and temporal bias.</p>				

Course Code	5122255	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	社会安全政策論				
Faculties	郷治 知道				
Course Objectives/Overview	<p>社会安全政策論においては、犯罪を中心とした人の行為に起因する危険から個人や社会を守るための政策を扱います。本講義を通じて、2000年代初め20年間の日本における治安の劇的改善を理論的に理解することができ、また、サイバー犯罪、サイバー攻撃、ストーカーその他、個々人が直面し得るリスクや課題に適切に対応するための鍵を得ることができます。さらに、講義や、レポート及び議論を通じて、社会における様々な課題を把握し、分析し、その解決策を提示する能力を養うことを目指します。</p>				

Course Code	5122384	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Space Development and Public Policy				
Faculties	KIKUCHI／NAKASUKA／KURIYAMA				
Course Objectives/Overview	<p>This course aims to provide an overview of space governance from the perspectives of space policy and law. For this purpose, lectures are to be given by academia, practitioners and specialists in outer space activities and utilization. The course requires students to explore the possible solutions/proposals on specific themes through joining group work and writing individual report.</p> <p>Space governance and space policy are interrelated and the key terms in understanding how space missions need to cope with the existing regulatory framework and how to identify pressing issues/challenges that all space actors need to go through. Such knowledge is beneficial not only to traditional actors (e.g.,</p>				

	<p>government and national space agencies) but also to New Space actors (e.g., private entities) or new space-faring nations (e.g., UAE) who started space missions recently. With the increasing number of space actors, due to growing interest in Sustainable Development Goals (SDGs), various space applications both by government and private sector are flourishing to support societal needs. Considering such a crowded situation in Earth orbit and the limits of resources available in outer space, this course provides comprehensive lectures that help students to explore the possible and practical solutions necessary for pursuing further space activities.</p> <p>In FY 2023, before dealing with the latest topics including space traffic management (STM), space resources exploration, and space x SDGs, the course provides introductory lectures on space policy and law, governance of various space activities, the role of space actors (i.e., space agencies, industry, international organizations) and the process/forum of rule-making for sustainable space activities.</p>
--	---

Course Code	5122390-2	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	現代日本政治論演習				
Faculties	谷口 将紀				
Course Objectives/Overview	<p>せっかく東京大学に来たのですから、講義を聞いたり本や論文を読んだりするばかりではなく、論文（計画書）として学修成果を形にしてみませんか。本演習では、現代日本政治研究に興味がある学生を対象に、基本的な研究法の修得から始め、若手研究者との対話、最新の研究例の検討、そして参加者一人一人の研究計画書作成までをカバーします。その先のデータ・資料の収集・分析や論文の作成まで関心のある人は、本演習と並行して、またはAセメスター以降にリサーチペーパーを履修してください。現代日本政治に対してレヴェアンスのある射程の大きなリサーチデザインを立てる力を養うことが目標です。</p>				

Course Code	5122400	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Global Governance				
Faculties	TIBERGHYEN Yves				
Course Objectives/Overview					

Course Code	5122451	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Health Policy and Governance				
Faculties	JIN BEI				
Course Objectives/Overview	This course will introduce the fundamental structure of the health system, with a special focus on the role of health policy and governance in achieving higher				

	performance. The design and analytical frameworks for health systems and policies, as well as critical global health issues will be introduced. By the end of this course, students are expected to be familiar with key health system challenges and corresponding policy options, and be able to apply the analytic frameworks and practical tools presented in this course to identify and address problems in health systems.
--	---

Course Code	5122501	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	海洋科学技術政策論				
Faculties	山口 健介				
Course Objectives/Overview	<p>科学技術の進歩等により、「海洋の自由」という国際法上の原則では海洋の管理が不十分になりつつあります。すなわち、海洋調査技術、資源開発技術、エネルギー技術等の進歩により、海が資源としての意味を持ち始めた結果、海洋開発をめぐる権利や利益が利害関係者間で争われる対象として立ち現れてきました。海は誰のものか？どのように利害関係を調整するのか？本講義の目的は、科学技術が海洋権益を生み出す過程とそれへの対応過程を理解し、関連する公共政策上の論点を学ぶことです。国際海洋研究所によるベーシックなテキストブックを学び合う形式で進めます。評価は、授業への貢献を基本とし、レポート等を加味します。</p>				

Course Code	5122502	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	海事政策論				
Faculties	長谷 知治				
Course Objectives/Overview	<p>四面を海に囲まれた我が国の経済・国民生活を支える上で、海事産業は非常に重要な役割を担っている。例えば、輸出入貨物の99.7%は海運により輸送されている。</p> <p>海事関係の主要分野には、国際・国内の海上輸送（貨物、旅客）、造船、船員、港湾、海上保安等があり、また物流、人流全体に関わるものである。そして、それぞれの分野では、安全確保、事業振興、環境対策、セキュリティ、離島振興、観光振興、人材確保・育成等の視点から必要な政策が議論され、立案、遂行されることになる。また、海事政策においては法令・予算・税制といった国内における措置に加え、IMO, OECD, ILO等国際機関への対応も重要な要素となっている。さらに海運においては古くから海運同盟等の競争政策について国際的及び国内的に重要な検討分野となっている。</p> <p>この授業では、海事関係の様々な分野の事業や業務の構造、歴史、制度、最近の課題や政策、今後の見通し等について、多面的に理解することを目標とする。このため、中央省庁における実務を踏まえた講義を行うとともに、様々な分野の第一線で活躍している政策当局者、海事産業に係る実務関係者、学識経験者の話を伺い、質疑応</p>				

	<p>答する機会を第2回から第12回において設ける。これにより、最新の業界や政策の動向や課題を把握するとともに、疑似的な政策当局として対応を行い、政策を考察する機会とする。政策については、海事だけでなく他の交通モードや他の政策分野、内外比較も踏まえることとする。</p> <p>なお、この授業は、大学院横断型教育プログラムの一つである海洋学際教育プログラムを構成する科目でもあることを踏まえ、法律、行政、海事産業等に関する予備知識があまりない者にも理解しやすいように配慮する。</p>
--	--

Course Code	5122503	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Global Political Economy				
Faculties	SUZUKI Kazuto				
Course Objectives/Overview	European Union has a unique system of governance. On the one hand, it has a feature of international organization as a collection of sovereign state, but on the other, it has autonomous authority and competence to govern. This course will provide how EU came to this form of governance and what are the policies that has been conducted within EU. It will discuss the issues in recent years such as Brexit, emergence of populist movements, and migration issues.				

Course Code	5122504	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Science and Technology in International Relations				
Faculties	SUZUKI Kazuto				
Course Objectives/Overview	The objectives of this course are threefold. First, it will focus on how science and technology changed international relations. It argues that the development of science and technology in military, health, navigation and other technologies have impacted on the relationship of interstate power relationship and the civilization. Second, it will focus on how international relationship has shaped and directed the course of science and technology development. In this segment, it will take up space and nuclear technologies of which are subject of export control. Third, it will focus on science and technology changed the structure of international trade, finance and intellectual base. It will argue how science and technology has impacted on international governance				

Course Code	5122505	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Governance of Space Activities				
Faculties	SUZUKI Kazuto / VERSPIEREN Quentin				
Course Objectives/Overview	<p>This course aims to raise awareness on the critical role of space technology in our daily lives and the important implications it has on domestic policymaking and international relations.</p> <p>The first part of the course, titled "Space and Society", provides an overview of major space technologies and their applications. It then demonstrates how space assets</p>				

	<p>have become a critical infrastructure on which advanced societies are over-reliant, and the hazards and threats that they are facing.</p> <p>The second part of course delves into political science and international relations. It addresses the various approaches to space policymaking, the structure of international relations in outer space and the major challenges ahead for the space sector.</p>
--	--

Course Code	5122506	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Evidence-based Science & Technology Policy Design				
Faculties	柴山 創太郎				
Course Objectives/Overview	<p>Science, technology, and innovation (STI) shape the foundation of the contemporary society and thus make a major arena of public policy. The complex nature of the STI system poses various challenges, and effective policymaking approaches have been explored and developed. Evidence-based policy making (EBPM) is one such approach that is expected to address the challenges and has been implemented in STI policy design, although it has its own challenges and limitations. In this course, students are expected to learn the context of STI and the basis of EBPM as well as to learn how EBPM can be applied to STI policy design.</p>				

Course Code	5123021	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	環境政策				
Faculties	有馬 純				
Course Objectives/Overview	<p>地球環境問題とエネルギー問題の密接不可分な関係、IPCC の科学的知見と不確実性、地球温暖化をめぐる国際ガバナンスの動向、温暖化対策の理論と実際、我が国における温暖化対策、目標の動き等についての理解の増進を目的とする。</p>				

Course Code	5123026	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	再生可能エネルギーと公共政策				
Faculties	有馬 純				
Course Objectives/Overview	<p>エネルギー安全保障、温暖化防止両面から再生可能エネルギー導入拡大に向けた期待が高まっており、コスト低下も急速に進んでいる。同時に間欠性のある再生可能エネルギーの大量導入が系統に与える影響、他電源に及ぼす影響、補助負担の拡大等、様々な課題も顕在化している。本講座では再生可能エネルギー導入拡大のための政策の現状、課題及び主要な再生可能エネルギー源毎の課題、プロジェクトファイナンスのあり方等について講義を行い、再生可能エネルギーについてバランスのとれた視点を提供することを目的とする。</p>				

Course Code	5123028	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	観光政策Ⅰ（概論編）				
Faculties	三重野 真代／大橋 弘／篠原 康弘				
Course Objectives/Overview	政府は 2003 年から「観光立国」の推進を掲げ、21 世紀の我が国経済を牽引する新たな基幹産業とするとともに、人口減少により規模が縮小する地方の創生の有効な手段として、観光を戦略的に成長させている。本講義では、観光分野の現場で活躍する多様な講師による講義、講師・学生とのディスカッション、現地視察を通じて、これからの観光政策のあり方や、観光政策の企画立案・実施・評価を行う上で必要な考え方について概論的かつ具体的に考察を深める。				

Course Code	5123029	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	観光政策Ⅱ（戦略編）				
Faculties	三重野 真代／大橋 弘／篠原 康弘				
Course Objectives/Overview	政府は 2003 年から「観光立国」の推進を掲げ、21 世紀の我が国経済を牽引する新たな基幹産業とするとともに、人口減少により規模が縮小する地方の創生の有効な手段として、観光を戦略的に成長させている。本講義では、行政または民間の観光分野の現場で活躍する多様な講師による具体的な観光戦略の実例に関する講義、講師・学生とのディスカッション、現地視察を通じて、戦略的な観光の活用に資する観光政策の企画立案・実施・評価の実践手法や観光政策のあり方について考察を深める。				

Course Code	5123030	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	都市地域政策				
Faculties	軸丸／高橋／大津／河端				
Course Objectives/Overview	現実の都市地域政策を経済学のツール等を用いて分析・評価する能力を養うことを目的とする。講義において実際に取り扱うテーマは、交通政策、土地政策、住宅政策、土地利用規制等の中から、適宜選択する。政策分析における GIS（地理情報システム）の活用法についても教示する。				

Course Code	5123031	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	地域交通政策研究				
Faculties	軸丸 真二／宿利 正史				
Course Objectives/Overview	地域交通を担う経営トップや現場の第一線の責任者、政策責任者及				

び研究者による具体的な政策や事例の解説に加え、講師や多様な研究科の学生とのディスカッション及び現地視察を通じて、地域交通政策に関する考察を深める。

Course Code	5123032-1	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Energy Security				
Faculties	ARIMA Jun				
Course Objectives/Overview	Learn about individual energy sectors from global energy security perspective. Find out public policy issues for each sector and develop policy responses to enhance secure, affordable and sustainable energy supply.				

Course Code	5123032-2	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Energy Security				
Faculties	ARIMA Jun				
Course Objectives/Overview	Learn about individual energy sectors from global energy security perspective. Find out public policy issues for each sector and develop policy responses to enhance secure, affordable and sustainable energy supply.				

Course Code	5123033	Term	S 2	Credits	2
Course Title	Energy Systems				
Faculties	KOMIYAMA Ryouichi / FUJII Yasumasa				
Course Objectives/Overview	In this course, basics of energy systems on and around nuclear energy are explained comprehensively. Environmental and economic evaluation methods associated with energy use and development are also mentioned so that the students can obtain balanced knowledge and ways of thinking of energy systems.				

Course Code	5123034	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Resilience Engineering				
Faculties	SHIBASAKI Ryuichi / FURUTA Kazuo				
Course Objectives/Overview	Resilience is the intrinsic ability of a system to adjust its functioning prior to, during, or following changes and disturbances, so that it can sustain required operations under both expected and unexpected conditions. Resilience can be an advanced concept of safety based on probabilistic concept of risk and now drawing attention of researchers and practitioners. Resilience engineering is an academic area of study to pursue methodologies how to implement resilience to complex socio-technological systems. This lecture provides fundamental concepts, frameworks of resilience engineering as well as an up-to-date overview of specific applications.				

Course Code	5123038	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Data Science for Practical Economic Research				
Faculties	KUCHERYAVYY Konstantin				
Course Objectives/Overview	<p>Despite its name, this class is on forecasting methods in economics and applications of machine learning methods to forecasting. A typical class on machine learning focuses on cross-sectional data, leaving almost no space for a discussion of how to work with time series data and how to make forecasts with such data. The purpose of this class is to cover this gap. This class might be useful for students who plan to work at financial companies and government entities tasked with making forecasts. We will closely follow the textbook by G. Elliott and A. Timmermann "Economic Forecasting". The book is quite advanced and requires good understanding of probability and statistics. During the lectures, we will cover chapters from this textbook and perform hands-on sessions. All homework assignments for this class will be practical: students will be asked to apply methods covered in the class to real datasets. The required programming language is Python.</p> <p>Students taking this class will be assumed to be familiar with basics of Machine Learning, probability and statistics, as well as programming in Python.</p>				

Course Code	5123042	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	International Trade				
Faculties	FURUSAWA Taiji				
Course Objectives/Overview	<p>The course is intended to offer the opportunities of reading and presenting up-to-date research papers in the field of international trade. The papers to read will be selected from the recent literature of international trade. Students can also select papers to read from other areas of research within the field of international trade. The aim is to increase students' ability to conduct their own research.</p>				

Course Code	5123046	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	食糧安全保障と農業政策				
Faculties	山下 一仁				
Course Objectives/Overview	<p>どのような分野の政策でも、ファクツやエヴィデンスを踏まえて、これをロジック・セオリーで構築することによって、企画・立案する（考える）ことが必要である。しかし、日本の食料・農業政策は、誤った事実認識や観念に基づき、また経済的な理論による裏付けもなく、企画・立案されてきた。特に、高度成長期以来、農業と政治との関係が深まるにつれて、このような傾向が高まり、その結果、農政自体が、農業の後退、食料自給率の低下を招いた。</p> <p>この講義では、日本の食料・農業政策を批判的に検討しながら、それを通じて、政策の企画・立案に真に必要となる“考える力”を養うことを目的とする。</p>				

Course Code	5123048	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	食料・農業政策における政策改革				
Faculties	奥原 正明				
Course Objectives/Overview	<p>地盤沈下しつつある日本経済を立て直すためには、様々な分野で、時代に合った大胆な政策改革をスピード感をもって実行し、経済の活力を取り戻していく必要がある。</p> <p>この授業は、行政機関等において政策の立案・実行に従事しようとする受講者を対象として、経済社会の発展に資する骨太な政策改革をスピード感をもって実現していくために必要な考え方・行動の仕方等を習得してもらうことを目的とする。</p> <p>そのため、食料・農業政策を事例として検証しつつ、政策改革を進めるためのポイントを抽出する。</p>				

Course Code	5123062	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	国際開発政策・評価論				
Faculties	青柳 恵太郎				
Course Objectives/Overview	<p>エビデンスに基づく国際開発援助実践（Evidence-Informed Practice in International Development）のために必要となる基礎知識の習得を目指す。具体的には、①エビデンス（介入効果の検証結果）を用いた開発援助プロジェクトの立案ができるようになること、②有効性が実証されていない介入については、その検証方法（評価デザイン）を描けるようになることの2点を目標とする。後者については、特にランダム化比較試験（Randomized Controlled Trial : RCT）による効果検証を中心に据え、開発援助実務者の視点から実践方法について学ぶ。</p> <p>RCTは確証度のもっとも高いエビデンスを作り出せる評価デザインである。その基本的な考え方は、対象者を介入群（介入を受けるグループ）と統制群（受けないグループ）にランダムに割り当て、介入群への介入実施後に両群の状態を比較するという非常に単純なものである。しかし、現実社会のなかでRCTによってエビデンスをつくり出す際には、開発課題を明確化させることに始まり、政策担当者や現場担当者との合意形成、検証方法のデザイン策定、実施プロセス管理、データ収集、分析、そして結果のまとめといった非常に泥臭いプロセスの中で様々な課題やつまずきに頻繁に直面することになる。本講義では現実味のある環境を想定した演習の中で準備からデータ分析までの一連のプロセスを体感することで、実践力を養成することを重視する。</p>				

Course Code	5123081	Term	S 1	Credits	2
Course Title	Political Economics				

Faculties	WEESE／WATANABE				
Course Objectives/Overview	<p>The course is an introduction to the topic of political economics. The course provides theoretical and empirical coverage of the application of economic analysis related to political behavior and political institutions. The objective of this course is to develop understandings of basic models of political economics and related empirical analysis.</p> <p>This course is intended for students with an academic interest in political decision-making. It is aimed at those considering a career in research in political science or economics, but other students are welcome to attend.</p>				

Course Code	5123082	Term	S 2	Credits	2
Course Title	Topics in Political Economics				
Faculties	WEESE／WATANABE				
Course Objectives/Overview	This course covers some of the recent developments in political economics with emphasis on structural empirical work. It is intended for students with an academic interest in political decision-making.				

Course Code	5123122	Term	S 2	Credits	2
Course Title	Applied Econometrics				
Faculties	SON Suk Joon				
Course Objectives/Overview	This course is focused on learning properties of key static discrete choice models and how to estimate them. Topics include multinomial logit, nested logit, mixed logit (random coefficient logit), endogeneity, and demand. It includes discussions about standard models in empirical industrial organization, such as models in McFadden (1974) and Berry, Levinsohn, and Pakes (1995). The methods are also often applied in labor, public, and health economics. Assignments include programming exercises as well as analytical ones.				

Course Code	5123171	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	政策担当者が語る日本の財政金融論				
Faculties	服部 孝洋／仲 浩史				
Course Objectives/Overview	我が国の財政は、先進国の中でも最悪の状況になっており、財政構造改革が喫緊の課題になっています。また、経済社会がかつてない構造変化を遂げてきており、社会保障制度、国と地方のあり方、国際通貨管理等、戦後わが国の基盤となってきた様々な制度について、改革が求められています。本講義では、政策実務担当者をゲストスピーカーとして招いて、これらの現状についての理解を深めるとともに、課題の解決に向けた政策立案について学びます。				

Course Code	5123172	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Evolution of Global Economic Policies				
Faculties	NAKAO Takehiko				
Course Objectives/Overview	<p>Students study through this course i) how economic policies have evolved since the demise of the Bretton Woods system in the 1970s, ii) what were impacts of Asian financial crisis in the late 1990s and the global financial crisis in 2008/09, iii) how Asian countries have achieved high growth and poverty reduction, and iv) what are new and emerging challenges for Asia and the World.</p> <p>Lecture is both theoretical and empirical, and based on the lecturer's experiences as Chairman of Institute, Mizuho Research & Technologies (April 2020-), President of Asian Development Bank (ADB) (2013-2020), Vice-minister of Finance for International Affairs dealing with G7, G20, and IMF issues (2011-2013), and other work at the Japan's Ministry of Finance, including tax, budget, and financial sector policy (1978-2013) and as an advisor in IMF's Policy Development and Review Department (1994-97).</p>				

Course Code	5123174	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Macro Contract Theory and Empirics				
Faculties	UEDA Kenichi				
Course Objectives/Overview	<p>Understand the general equilibrium of contract theory and its implications for a macroeconomy. Note that this course is primarily for doctoral students or those who hope to enter a doctoral program. This course is quite mathematical and starts with learning key mathematical concepts such as topology and probability measures. Students are expected to understand the fundamental mechanisms (e.g., Nash equilibrium, core, lottery equilibrium) to support a general equilibrium with frictions, particularly financial frictions. Students are expected to recognize key model assumptions to make decentralized allocations of consumption and investments to be equal to, or not equal to, the socially optimal allocations. Policy implications naturally follow.</p>				

Course Code	5123211-2	Term	S 2	Credits	2
Course Title	Foundations of Development Economics				
Faculties	SAWADA Yasuyuki				
Course Objectives/Overview	This course will be composed of English lectures on advanced graduate-level development economics.				

Course Code	5123215	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Contemporary Issues in Development Economics				
Faculties	CHEN Stacey				
Course Objectives/Overview	This course covers contemporary topics in development economics. It is appropriate for graduate students in economics, public policy, agricultural and				

	resource economics, and related fields. **Prerequisite: Econometrics for Public Policy or its equivalent
--	---

Course Code	5123221	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Interdisciplinary Issues in Development Economics				
Faculty	庄司 匡宏				
Course Objectives/Overview	<p>This course covers interdisciplinary research topics in economic development, such as health, gender, non-cognitive skills, and community. Each topic consists of two sections. In the first section, we comprehensively review the broad literature in economics and related fields, such as sociology and psychology. The goal of this section is to understand various socio-economic issues in developing countries comprehensively.</p> <p>In the second section, we focus on a few recent empirical papers and discuss the details, such as their contributions to the literature, econometric methodology, and policy implications. This section aims to learn how to read and write academic papers rigorously.</p> <p>This course is for a broad range of students who are interested in any careers related to international development, including development practitioners and researchers.</p>				

Course Code	5123232	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Empirical Analysis of Dynamic Macroeconomic Models				
Faculty	SHINTANI Mototugu				
Course Objectives/Overview	<p>Empirical analysis of macroeconomic time series data does not only require the description of dynamic properties but also the interpretation of the result in term of the structure of the macroeconomy. To provide such structural interpretation, in the course, we learn (1) the identification of the structural shocks in the vector autoregressive (VAR) model, (2) the use of impulse response function and the variance decomposition, and (3) the relationship between the estimated VAR model and theoretical macroeconomic model such as the dynamic stochastic general equilibrium (DSGE) model. Motivated undergraduate students are also welcome.</p>				

Course Code	5123236	Term	A 1	Credits	2
Course Title	Topics on Modern Japanese Economy				
Faculty	HOSHI Takeo				
Course Objectives/Overview	<p>This course surveys issues related to the Japanese economy. A particular emphasis is put on understanding economic troubles that Japan started to face at the end of the last century, including macroeconomic stagnation, deflation, aging and population decline, seemingly unsustainable fiscal policy, extremely low interest rates, and stagnating wages in the tight labor market. Many of those issues are now observed in other advanced economies and pose challenges to the standard economic theory. The course explores how much we can use the standard tools in economics to understand the issues in the Japanese economy and tries to derive</p>				

	general lessons that would apply to other economies that are or will be experiencing similar issues.
--	--

Course Code	5123237	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Institutional Analysis of Japanese Economy I				
Faculties	中林 真幸				
Course Objectives/Overview	<p>In the early seventh century, the imperial court completed introduction of the Chinese centralized administrative and land-ownership regime, which only proved to fail to provide appropriate incentives to relevant stake holders. Adjustment of the regime to the reality brought about the manorial system. The manorial system, the landownership and administrative system in medieval times, was a characterized by multiple claimants and stratified authorities on a parcel of farmland. This complicated mechanism better worked to share risk and to mitigate incentive problems that had become salient in the ancient times. Then, in early modern times, the shogunate and lords came to protect peasants' exclusive property right of a parcel farmland the peasant family cultivated, to provide augmented incentives to peasants who now became more resilient against external shocks. The protection of exclusive property right in the early modern times formed the institutional basis of the market economy. At the same time, the shogunate attempted to stabilize the peasant economy by regulating the farmland and agricultural financial markets. The regulation enabled the social stability under the shogunate regime.</p> <p>After the Meiji Restoration, the exclusive property right was reauthorized, and regulations on the farmland and financial markets were abandoned. Furthermore, modern judicial system and firm organizations, along with modern technologies, were introduced from the West. The modernization effort accelerated market expansion and ignited industrialization.</p> <p>Industrialization from the 1880s not only accelerated the productivity growth but also transformed the Japanese society to a more market oriented system, whose entire process is called industrial revolution. The modern sectors in the Japanese society composed a classical market economy from the 1880s to the 1910s. The development in the period was supported by the well integrated international market, and was at least partly accommodated by the pool of slack labor in the traditional sector. Since the 1920s, especially in the 1930s, those favorable environments were impaired. Without a stable international financial market, the macroeconomic stability of a national economy needed to be sustained by individual states. Such an international condition rather exacerbated difficulty of managing the society as the labor market was becoming tighter as slack labor in rural regions was absorbed by the growing modern sector. At the end, Japan chose a state-coordinated market economy after the experiment of command economy during the second world war.</p> <p>Then, from the 1980s, the economy has gradually back to the normal, the rule-based market economy. As of the course is to overview institutional changes in the Japanese economy from the 1920s to the 2000s and to understand how institutional and organizational factors work in a changing society.</p> <p>How was the manorial system formed, and how did it mitigate incentive problems then? How was property right of peasants was formed and protected in early modern times? Finally, how was Japan industrialized after the Meiji Restoration? In the real world, the first best resource allocation, which is presumed to be realized</p>				

	under perfect competition, cannot be achieved anyway. Given the structure of informational asymmetry and other technological conditions, a better second best has been sought and has evolved over times. The first aim of the course is to understand economic development of Japan from the medieval times, through the Tokugawa period and the Meiji Restoration, to the industrial revolution in the late 19th century. Then, current shape of the Japanese economy would be better understood by placing the structural reform in the last three decades on a broader context from the 1920s. This is our goal.
--	--

Course Code	5123238	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Institutional Analysis of Japanese Economy II				
Faculties	NAKABAYSHI Masaki				
Course Objectives/Overview	We detail several factors that affected the fate of the Japanese economy from the eighteenth century to the twentieth century. Our first aim is to provide rich knowledge on the economic development of Japan. Japan's historical experience has become more, not less, relevant to contemporary economists. For a long time, Japan had been the only non-Western industrialized economy. Now, led by China, the industrial power has dramatically shifted toward the non-Western world. Japan's experience would give lessons to understand how a non-Western economy becomes industrialized and transforms own socio-economic system. Our second aim is to practice application of economics you have learned to a real case. The knowledge of economics enriches your intellectual and professional life only if you can adequately apply the theory you learned to the first-hand reality. We try it by taking examples from the Japanese experience.				

Course Code	5123245	Term	S 1	Credits	2
Course Title	保健医療経済学				
Faculties	康永 秀生				
Course Objectives/Overview	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療経済学の基礎知識を身に着ける。 2. 医療経済学の考え方に沿って、現実の医療経済政策における個別の課題について考察する力をつける。 				

Course Code	5123250	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	エネルギー政策				
Faculties	小山 堅／有馬 純				
Course Objectives/Overview	わが国を取り巻くエネルギー情勢には様々な課題が山積している。コロナ禍の影響でエネルギー価格は暴落したが、その後上昇に転じ、2021年後半からは原油価格が急上昇するなど、同時多発的エネルギー価格高騰が重大な問題となっている。また、ウクライナへの軍事侵攻でエネルギー価格の高騰と市場不安定化が加速している。ウクライナ危機によって西側と中ロの対立激化など、厳しい地政学				

	<p>環境が国際エネルギー情勢を揺り動かしている。また世界のエネルギー供給の中心である中東情勢は一段と不透明化している。他方、「カーボンニュートラル」実現への取組みが世界で進展してきたが、ウクライナ危機の影響でエネルギー安全保障が最重要課題となり、脱炭素化との両立など新たな課題が生じている。</p> <p>厳しい国際情勢を踏まえ、わが国にとって今後のエネルギー政策課題は山積している。日本のエネルギー政策の基本となる、「エネルギー基本計画」が改定され、2021年10月に閣議決定された。2050年のカーボンニュートラル実現と共にエネルギー安全保障格も目指す、新しいエネルギーミックス・エネルギー政策の実施が重要な課題となっている。内外の最新エネルギー情勢を踏まえつつ、エネルギー安全保障と気候変動問題の一体的・統合的な解決を目指すエネルギー政策の現状と課題について、理解を深めるべく、講義を進めていく。</p>
--	--

Course Code	5123251	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	グリーンエネルギー論				
Faculties	杉山 正和				
Course Objectives/Overview	<p>2050年にカーボンニュートラルを達成するためには、現状のエネルギーシステムにおける主要なエネルギー源である化石燃料を主に電力へと転換して太陽光や太陽光や風力発電を我が国の主要発電源とし、電力への転換が困難な燃料としてのエネルギー供給は水素などのCO₂フリー燃料で置換する必要がある。一方で、製鉄や化学産業など化石資源の継続利用が避けがたい領域においては、バイオ資源を有効活用するとともに、排出されるCO₂を回収して地中に埋設するCCSや、CO₂と水素から有用な炭化水素を産出するカーボンリサイクル技術の開発が待たれる。このような次世代エネルギーシステムに必要な発電やエネルギー貯蔵・輸送技術の原理を俯瞰的に理解し、それらが統合されたエネルギーシステムにおける課題と克服策を議論する。</p>				

Course Code	5123252	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	電力ネットワークの経済学				
Faculties	金本 良嗣				
Course Objectives/Overview	<p>電力システムの大改革が進行中であり、再生可能エネルギーの大量導入、供給安定性の確保、国民負担の低減の3つを同時に達成するための、電力システムの再設計が目指されている。非凸性等の複雑な技術的特性を反映して、電力市場の設計は経済学にとってチャレンジングな課題を多く提供している。この授業では電力システムの経済学的な側面をなるべくわかりやすく解説し、電力市場の設計に関する理解を深めることを目的とする。</p>				

Course Code	5123262	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Asian Economic Development and Integration				
Faculties	園部 哲史				
Course Objectives/Overview	<p>This course reviews the key factors influencing the rapid growth and development of Asian economies since the Asian financial crisis of 1997-98 and how globalization and regional cooperation affect the development of countries in this region. The COVID-19 pandemic has been a game-changer in this area and has fundamentally transformed many aspects, including the process of policy formulation.</p> <p>The course will examine a range of development challenges that the region has faced, and the response made by various economies. It will draw on diverse country, sub-regional, and regional experiences to identify policies that seem to have contributed most significantly to growth and development, examine why they “worked,” and how they might be applied in other developing economies. It will consider current policy debates on a host of “hot” topics including poverty and social security, macroeconomic fiscal and monetary policies, infrastructure, the role of small medium enterprises (SMEs), financial sector development, industrial development, food security, and education. At the end of the course, students should understand the key drivers of Asian economic growth, development and integration in the past 50 years and be familiar with a range of development issues likely to influence future policy options in the region.</p>				

Course Code	5123263	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Asia's Geoeconomic Landscapes and Public Policy I				
Faculties	NISHIZAWA Toshiro / ARMSTRONG Shiro				
Course Objectives/Overview	<p>This course has three objectives. First, it aims to help students deepen their understanding of Asia's geoeconomic landscapes, focusing on the current public policy issues (as if to deal with known unknowns). Second, it tries to familiarize students with multiple perspectives to interpret the recent episodes (as if to deal with unknown knowns). Third, it gives students opportunities to discuss how to deploy public policy tools to address Asia's geoeconomic challenges (as if to deal with possible unknown unknowns). Guest speakers will provide students with various perspectives and interpretations of particular episodes and policy issues. As a practical training course with an active learning approach, students make presentations, discuss current policy issues, and write a blog post-style report.</p>				

Course Code	5123264	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Asia's Geoeconomic Landscapes and Public Policy II				
Faculties	NISHIZAWA Toshiro / ARMSTRONG Shiro				
Course Objectives/Overview	<p>This course has three objectives. First, it aims to help students deepen their understanding of Asia's geoeconomic landscapes, focusing on the current public policy issues (as if to deal with known unknowns). Second, it tries to familiarize students with multiple perspectives to interpret the recent episodes (as if to deal with unknown knowns). Third, it gives students opportunities to discuss how to deploy public policy tools to address Asia's geoeconomic challenges (as if to deal</p>				

	with possible unknown unknowns). Guest speakers will provide students with various perspectives and interpretations of particular episodes and policy issues. As a practical training course with an active learning approach, students make presentations, discuss current policy issues, and write a blog post-style report.
--	--

Course Code	5123272	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	医療イノベーション政策				
Faculties	鈴木 寛／昌子 久仁子				
Course Objectives/Overview	<p>国の医療の水準、そしてその結果としての健康の水準は、医療に対する支出の全体の水準と個別の価格設定、提供される医療の安全・安心や一定の質を確保するための国家の関与、医療事故に対する責任の構造、効率的で公平な国民のアクセスを提供するための人的・物的インフラの整備のルールなどに対して、医師、患者、病院、保険者、薬局、製薬企業、医療機器メーカーなど様々な主体が反応していく行動の総体として決定される。そして、これらの主体の行動や制度の有効性は、少子高齢化の進展、グローバル化の展開、経済成長の動向、医療技術の進歩などにより変化している。</p> <p>本講義は、医療水準やその結果としての国民の健康の水準を決定する様々な制度について、当事者間の合意と市場の働きに委ねるのではなく国家の関与が必要とされる理由にさかのぼって考え理解するとともに、特に近年、医療・健康政策と経済成長のための政策の両面から注目されている「医療イノベーション」に視点を当ててこれらの諸制度の評価を行う。</p> <p>医療をめぐる近年の急速な技術進歩やグローバル化の進展を理解するとともに、基礎的科学から患者への提供にいたるヘルスケア産業のイノベーションの過程を取り上げ、国際的な比較を交えて、日本のイノベーション環境の評価を行う。また、「医療イノベーション」を経済成長のための政策としてみる場合の留意点について理解する。それらに合わせて、先端医療技術の活用におけるリスクや不確実性、個人情報保護、倫理上の課題も取り扱う。具体的な事例としては、医薬品・再生医療・医療機器に関する研究開発や承認プロセス等を扱う予定である。</p>				

Course Code	5123350	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Public Policy and Energy				
Faculties	YOSHIKAWA Hisashi／BIROL Fatih／KUSAKA Kazumasa				
Course Objectives/Overview	<p>This course aims to provide the students with a practical understanding of public policy in the context of energy and climate change policy. The students will be directed to develop pragmatic skills (presentation, communication, document preparation, and time management) that will be useful for future careers not only in public sector but also in other fields such as business. The main angle of this class is public policy, through the window of energy policy. This is a public policy course, which discusses energy and climate change issues as its main focus.</p>				

	<p>The course will discuss policy makers' decisions, considering multi-faceted factors such as economy, national security, technology and innovation, foreign policy. International organizations play a significant role in this arena because of the global nature of energy, climate change and the policies. The course also aims to define the fundamentals of energy markets and systems. In addition, public policy issues such as trade-offs, evidence-based policy making, public awareness, and the role of various stakeholders will be picked up and discussed in the class. The students are encouraged to actively participate in the class discussion as this is a student-oriented class where students will be evaluated on their logic, clarity, pace, material, and timeliness.</p>
--	--

Course Code	5123400	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Economic Analysis of Innovation				
Faculties	YARIME Masaru				
Course Objectives/Overview	<p>This course discusses the functions and mechanisms of innovation systems and the economic assessment of their impacts, with implications for industrial structure and dynamics and societal challenges. A particular attention is paid to corporate strategy, public policy, and institutional design. Among the issues to be discussed in this course include models of technological change, systems approaches to innovation, research and development, intellectual property rights, university-industry collaboration, public policy for innovation, and case studies in various sectors. The processes of producing, adopting, and utilizing innovations are elaborated from a perspective of co-evolution of technology and institutions. Analysis of economic evolution is introduced, and its concepts and methodologies are elaborated to represent and model the dynamics of innovations. Systemic approaches are taken to discuss the functions and structure of innovations at the national as well as industrial levels. These theoretical frameworks introduced in the first half of the course are utilized to understand the mechanisms of creating innovations on various types of societal issues, including food, energy, chemicals, information and communication, and health. Implications for public policy and institutional design are explored for a transition towards global sustainability.</p>				

Course Code	5123401	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Economic Analysis of Pandemics				
Faculties	NAKATA Taisuke / IWAMOTO Yasushi				
Course Objectives/Overview	<p>To learn mathematical and statistical tools to analyze understand the implication of various policies during pandemics. To become familiar with facts and policy issues related to the Covid-19 crisis.</p>				

Course Code	5123402	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Advanced Time Series Analysis				
Faculties	SHINTANI Mototsugu				

Course Objectives/Overview	Most macroeconomic data show dynamic properties in the sense that the current value is connected to events in the past in some forms. A formal statistical analysis of this dynamic feature helps us understand and forecast the macroeconomy. In the course, we learn the basic time series models including autoregressive (AR) model, vector autoregressive (VAR) model, dynamic factor model and machine learning. Motivated undergraduate students are also welcome.
----------------------------	---

Course Code	5123405	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Global Financial Market, Institutions, and Regulations				
Faculties	KAWAI Yoshihiro				
Course Objectives/Overview	<p>This course aims to provide students with first-hand information and knowledge on global financial regulation and help them develop a broad understanding of financial regulation, paying particular attention to the global nature of financial regulation. The course also covers global financial market development.</p> <p>The course covers key topics of global coordination of financial regulation. Issues covered are: history of global financial coordination, the 2008/2009 financial crisis, and the financial regulatory reform after the 2008/2009 crisis. The course in particular discusses key financial regulatory standards in the areas of global systemically important financial institutions (G-SIFIs), recovery and resolution, capital requirements, liquidity requirements, corporate governance, market based finance, over-the-counter derivatives, artificial intelligence (AI), financial technology (Fintech), cyber risk and digital currencies.</p> <p>Students taking this course for credits must take part in all lectures, participate actively in classroom discussions, present a draft term paper on topics related to the course, and submit the final version of the term paper.</p>				

Course Code	5123406	Term	S 1	Credits	2
Course Title	Financial System				
Faculties	HOSHI Takeo				
Course Objectives/Overview	<p>This course studies how the financial system works to support economic growth most of the times and how it gets into a crisis occasionally and puts the economy into a recession. We examine recent papers in economics that tackle these questions theoretically and empirically. The course emphasizes the importance of the informational and incentive problems inherent in financial transactions. The financial system consists of various mechanisms to mitigate those problems but the mechanisms are not perfect and sometimes fail. We also study various aspects of financial stress testing, which has become very popular after the global financial crisis in 2007-2009. Stress tests are used to assess the resilience of individual financial institutions as well as the financial system as a whole to various shocks.</p>				

Course Code	5123433	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Sovereign Debt				
Faculties	NISHIZAWA Toshiro				

Course Objectives/Overview	<p>This course has three objectives. First, it aims to help students deepen their understanding of the nature of sovereign debt—public debt compared with private debt (conceptual framework). Second, it tries to familiarize students with sovereign debt issues based on past and current episodes (lessons from history). Third, it gives students opportunities to discuss how we should manage sovereign debt to achieve public policy goals (policy implications). Guest advisers† will review and comment on the student’s work in progress. As a practical training course with an active learning approach, students give presentations, discuss current topics, and produce a policy research paper on a particular country of student choice.</p> <p>† Guest advisers are current and former staff of the International Monetary Fund (IMF) and the ASEAN+3 Macroeconomic Research Office (AMRO).</p> <p>Background and motivation</p> <p>We know many episodes of sovereign debt crises. In the recent past, since the global financial crisis of 2008-09 and following the Eurozone crisis, large buildups of government debt in advanced, emerging, and developing economies have raised concerns over possible sovereign debt crises. There has been an ongoing debate about how to get under control Japan’s sovereign debt, which represents more than twice the OECD members’ average debt-to-GDP ratio. In China, debt owed by local government financing vehicles has been a concern. Furthermore, in some emerging and developing countries, governments have been struggling with debt management while pursuing economic development by accumulating public- and private-sector liabilities to various creditors.</p> <p>Most recently, the COVID-19 pandemic has equally worsened the debt prospects for advanced, emerging, and developing economies. The G20 extended its Debt Service Suspension Initiative (DSSI) and endorsed the Common Framework for Debt Treatments beyond the DSSI for the world’s poorest countries as a remedy to address debt sustainability problems. One of the most pressing policy challenges is how to pull a particular country or the global economy out of a vicious circle of debt trap while securing gains from debt.</p> <p>Furthermore, we should look at the interaction between creditors themselves as reminded by inter-creditor equity issues in debt restructuring as observed on many occasions. We should also look at equity issues from intergenerational perspectives. Public policy professionals should be aware that sovereign debt has important economic but also political and social consequences, which require public policy and legitimacy considerations.</p>
----------------------------	---

Course Code	5123450	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	国際交通政策				
Faculties	宿利 正史／軸丸 真二／大橋 弘				
Course Objectives/Overview	国際交通分野の各界トップによる講義と、講師・教員や多様な研究科の学生とのディスカッションを通じて、交通・運輸の実態を踏まえた政策のあり方について考察を深める。				

Course Code	5123471	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Labor Economics				
Faculties	KAWAGUCHI Daiji				

Course Objectives/Overview	This course is a graduate level labor economics course. We pick up selected topics in labor economics. By the end of the class, students are expected to know how the literature has developed in selected topics. I will highlight the importance of data quality and research design in the empirical research. The topics covered include skill accumulation on the job, social skill, monopsony, minimum wage, temporary help agency, the role of technology in the labor market.				
----------------------------	---	--	--	--	--

Course Code	5123472	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Topics in Labor Economics				
Faculties	YAMAGUCHI Shintaro				
Course Objectives/Overview	<p>We read and discuss papers on various topics in (broadly defined) labor economics from top academic journals. Topics include (1) labor market monopsony, (2) minimum wage, (3) nonmonetary incentives, and (4) management.</p> <p>All students and the professor must read an assigned paper before each class. Students are also required to submit a one-page referee report for each paper as a preparation for the class. Each paper is presented by a participant (maybe the professor), but everyone else is expected to ask questions or make comments.</p> <p>You may find this class challenging, but I am sure that we will have very productive discussion.</p>				

Course Code	5123475	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	機械学習の実証経済学への応用				
Faculties	川田 恵介				
Course Objectives/Overview	<p>現在急速に労働経済学への応用が進展している「機械学習の因果推論への応用」について紹介する。とくにコントロール変数の選択や効果の異質性分析について、機械学習を補助的に用いる手法が多く提案されている。これらの手法は分析の精度を向上させるだけでなく、現在実証研究において大きな問題となっている"Cherry picking"問題を緩和することも期待されている。</p> <p>本講義では、基礎的な因果推論と機械学習を学んだあとに、それらを融合させた手法群について学ぶ。また無料の統計ソフトである R を用いた実習も行う。</p>				

Course Code	5123480	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	金融論（金融制度と企業金融）				
Faculties	服部 孝洋				
Course Objectives/Overview	<p>本講義では金融論を学びます。筆者の考えでは金融は経済学の知見が最も応用されている産業です。その意味で学生はこれらを勉強することを通じて大学での勉強と実体経済をより関連付けることができます。本講義では経済学の応用に関心がある学生はもちろん、経済学と実体経済の関係を知りたいと考える学生を歓迎します。企</p>				

	業金融論など日本の金融システムと関連付けた説明を行う予定です。なお、金融政策については別途講義があるため、本講義ではカバーしない予定です。
--	---

Course Code	5123488-1	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	金融市場と公共政策				
Faculties	池田 宜睦				
Course Objectives/Overview	<p>本講義では、金融市場や金融システムを巡り、これまでの現実的課題に対して、どのような政策対応がとられ、その効果はどう評価されているのか、という観点から、政策対応の背景や考え方、関連する理論、実証分析等について概観していく。将来、金融機関・商社やシンクタンク、コンサルティング・ファーム、政策当局等において、金融実務を担うことを考えている学生を念頭に、具体的には、非伝統的金融政策、マクロプルーデンス政策、金融システム対応、地域金融、政策金融、不公正事案に対する市場監視、コーポレートガバナンス、ベンチャーファイナンス、FinTech等のテーマを概説的に扱う。</p> <p>担当教員は、中央官庁（金融庁、財務省）における勤務経験を有する行政官である。講義に際しては、理論に加えて、現実の動きをバランスよく取り扱っていきたいと考えている。なお、本講義は、みずほ証券寄付講座の一環であり、公共政策大学院・経済学部の合併講義である。</p>				

Course Code	5123491	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	規制政策				
Faculties	松村 敏弘				
Course Objectives/Overview	<p>政府による民間活動の規制に関して、規制の意義、規制手法、政策形成における政治的プロセス、規制政策の効果に関する経済学的分析等を学び、規制分野の政策分析を行う能力を養う。講義は2つの部分からなる。第1部では、基礎となる経済理論を概観し、この分析道具を駆使して、規制政策の背後にある基本的な原理を経済学的に明らかにする。ここで扱うトピックは、混雑料金、ピークロード料金、ラムゼイ料金、規制の政治経済学、公正報酬率規制、プライス・キャップ規制とインセンティブ規制、情報の非対称性のもとにおける規制政策である。第2部では、エネルギー、通信、運輸産業などの具体的な規制産業を取り挙げて、なぜそもそも規制が必要か、規制がどのような経済効果を持つか、現行の規制の問題点は何か、望ましい規制の体系はどのようなものであるか等を解説する。また部門横断的な環境政策についても取りあげる。</p> <p>This course introduces students to economic analysis of regulation. The main goal is to familiarize students with the important topics in regulation policies today, and put students in a position to do their own policy analysis in this area. The course</p>				

	begins with an extensive discussion of economic theories necessary to understand regulatory policies.
--	---

Course Code	5123495	Term	S 1	Credits	2
Course Title	Monetary Policy				
Faculties	AOKI Kosuke				
Course Objectives/Overview	<p>本講義では金融政策にかかわるトピックをマクロ経済学の分析手法を用いて解説する。取り上げる分野は、金融政策の波及経路、ニューケインジアンモデル、最適金融政策、中央銀行の独立性、資産市場と金融政策等、非伝統的金融政策である。</p> <p>講義は、単一の教科書に基づくものではないが、以下の教科書が有用である。"Monetary Policy, Inflation, and the Business Cycle" by Gali, "Monetary Theory and Policy" by Walsh. 講義ノートはウェブページで入手可能。</p> <p>To learn various topics on monetary policy. Topics covered include: identification of the monetary transmission mechanism, the New-Keynesian models, optimal monetary policy, unconventional monetary policy, central-bank independence, financial markets and monetary policy.</p> <p>The course will not be based on a single textbook, but the following textbooks are useful: ""Monetary Policy, Inflation, and the Business Cycle" by Gali, "Monetary Theory and Policy" by Walsh. Additional readings will be made available to students through the course homepage.</p>				

Course Code	5123505	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Topics in Empirical Microeconomics				
Faculties	SON Suk Joon				
Course Objectives/Overview	<p>The syllabus is preliminary.</p> <p>The focus of the course is to critically understand a selection of papers in empirical microeconomics. Focus will be given to the papers in the following fields: labor economics, industrial organization, and empirical market design. The course will be based mainly on class discussions about selected leading papers in these topics. Although students are expected to have read papers before class, they are also encouraged to bring questions about the parts they do not understand. Before each paper discussion, there will be a short introduction/presentation of the paper. Before and after a section of the papers, we will have a review and a preview of the papers.</p>				

Course Code	5123506	Term	A 1	Credits	2
Course Title	Discrete Choice Models				
Faculties	SON Suk Joon				
Course Objectives/Overview	<p>This course is focused on learning the properties of discrete choice models, how to estimate them, and their applications. Topics include multinomial logit, nested logit, mixed logit (random coefficient logit), and dynamic discrete choice models. It includes discussions about some standard models in empirical industrial</p>				

	organization and labor economics, such as models in McFadden (1974), Rust (1987), and Keane and Wolpin (1997). Assignments include programming exercises as well as analytical ones.
--	--